

令和7年度 3年生

# 普通科

特別進学選抜コース

特別進学コース

特別進学国際コース

科・コースガイド

高崎商科大学附属高等学校

## 【国語科 シラバス】

科目名	論理国語			使用 教材	教科書	論理国語（大修館書店）
学 年	3	単位数	2		副教材	学習課題ノート（大修館書店）
科・コース	普通科 特別進学選抜コース 特別進学コース 特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

国語で主体的・対話的で深い学びをとおして、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考えたり批判的に読んだりする力・他者に共感する力・想像する力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める態度を育てます。また、言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育む態度を育てます。

### 【学習方法と授業の進め方】

第2学年では第I部を学習し、基礎的な論理的思考力を育てます。言語・芸術・共同体・科学など評論を理解する上で欠かすことのできない概念を【読むこと】【書くこと】の学習を通して理解することを目指します。

### 【学習評価】

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができているか。</li> <li>・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができているか。また文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができているか。</li> <li>・主張とその前提や反証 など情報と情報との関係について理解を深めることができているか。</li> </ul>	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができているか。</li> <li>・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができているか。</li> <li>・個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫しているか。</li> </ul>	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。</li> <li>・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができているか。</li> <li>・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができているか。</li> </ul>	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
- ・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
- ・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
- ・提出物の期限は、厳守してください。
- ・日ごろから新聞などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	1 自己と他者	贈り物としてのノブレスオブリージュ (内田樹) 【書く】立場を明確にして書く	4	
	5	入試問題演習	共通テスト対策		
	6	入試問題演習	共通テスト対策		
	7	入試問題演習	共通テスト対策		
第2学期	9	入試問題演習	二次・私大対策		
	10	入試問題演習	二次・私大対策		
	11	入試問題演習	共通テスト対策		
	12	入試問題演習	共通テスト対策		
第3学期	1	入試問題演習	共通テスト対策		
	2				
	3				

## 【国語科 シラバス】

科目名	文学国語			使用 教材	教科書	文学国語（大修館書店）
学 年	3	単位数	2	副教材	学習課題ノート（大修館書店）	
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース文系 特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てます。主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視します。

### 【学習方法と授業の進め方】

第Ⅰ部9単元・第Ⅱ部8単元の二部構成となっています。現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な教材や評価の定まっている基本的な教材がバランスよく配置され、小説、随想、評論、詩歌、古典など多様な時代・ジャンルの文章に触れることができます。その中で、課題に沿って文学的な文章を書く活動に段階的に取り組めたり、主要な古典作品に触れて我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深められたりできます。言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に着けます。

### 【学習評価】

観点別評価		
評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解しているか</li> <li>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできているか</li> <li>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができるか。</li> <li>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深められているか。</li> </ul>	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にし、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫しているか。また、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫しているか。</li> <li>・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察したり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりできているか。</li> <li>・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができているか。</li> </ul>	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしているか。</li> <li>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めようとしているか。</li> <li>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。</li> </ul>	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
- ・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
- ・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
- ・提出物の期限は、厳守してください。
- ・日ごろから小説や詩歌などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	2 小説（一）	鍋セット（角田光代） 【読む】文体の特徴とその効果について理解を深める。 作品をとおして、日常的なできごとや体験の意味を振り返る。 【書く】手紙を書く		
	5	3 小説（二）	掟の門（フランツ・カフカ） 【読む】寓意による表現方法の批評性について理解を深める。 【書く】視点を考えて書く	4	
	6	4 随想・評論（二）	陰影礼讃（谷崎潤一郎） 【読む】日本の伝統的な価値観やその変化について考えを深める。	4	
	7	5 小説（三）	待つ（太宰治） 【読む】登場人物の視点をとおして、世界のとらえ方について考えを広げる。 【書く】ショートストーリーを書く。	16	
第2学期	9	7 小説（五）	伊豆の踊り子（川端康成） 【読む】作品の構造をとらえ、日常と違う世界について想像を広げる。	5	
	10	問題演習	入試対策問題演習 ・共通テストレベルの問題に取り組み、基礎的な力を確認しよう。		
	11	問題演習	入試対策問題演習 ・共通テストレベルの問題に取り組み、基礎的な力を確認しよう。		
	12	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
第3学期	1	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
	2	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
	3				

【国語科 シラバス】

科目名	古典探究			使用 教材	教科書	精選 古典探究（大修館書店）
学 年	3	単位数	2		副教材	学習課題ノート（大修館書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 徹底理解高校漢文（東京書籍）
科・コース	普通科 特別選抜進学コース理系・特別進学コース理系 特別進学国際コース					

【授業の概要】

古典などを読んで、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めたり、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高めたり、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させたりすることを目指します。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のうち、「読むこと」の配当時間のみの科目です。

【学習方法と授業の進め方】

古典としての古文及び漢文、日本漢文を扱います。文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを学び、作品や文章の歴史的・文化的背景などへの理解を深めます。また、異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動を行います。

【学習評価】

観点別評価		
評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしているか。</li> <li>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めているか。</li> <li>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めているか。</li> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めているか。</li> </ul>	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えているか。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか。</li> <li>・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察できたか。</li> <li>・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができたか。</li> <li>・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。</li> </ul>	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしているか。</li> <li>・進んで作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察しようとしていることができたか。</li> <li>・進んで文語のきまりや古典特有の表現、漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって古典を学ぶ意義について考えを持とうとしているか。</li> </ul>	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読み、意味調べなどの予習は最低限やっておきましょう。
- ・こまめに辞書を引く習慣を身につけましょう。
- ・提出物の期限は厳守しましょう。
- ・積極的に読書をし、生活や人生について考えを深めましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	古典文法の確認 古文編Ⅱ 2 随筆	【読むこと】 枕草子「頭の弁の、職に参りたまひて」 ・基本文法事項（用言・助動詞・助詞）の確認をしよう。 ・作者独自の視点のものの見方、感じ方を味わおう。	5	
	5	古文編Ⅱ 4 日記	【読むこと】 蜻蛉日記「町の小路の女」 和泉式部日記「薫る香に」 ・文法事項（敬語の用法）の確認をしよう。 ・平安時代の宮廷生活や平安女性の生き方を考えよう。	5	
	6	漢文編Ⅱ 5 思想	【読むこと】 「老子」「韓非子」 ・基本漢文句形の確認 ・諸子百家のさまざまな思想を理解し、その現代的な意義を考えよう。	16	
	7	問題演習	入試対策問題演習 ・基本レベルの問題に取り組み、自分の課題を認識しよう。		
第2学期	9	問題演習	入試対策問題演習 ・基本レベルの問題に取り組み、さまざまな問題形式に慣れよう。		
	10	問題演習	入試対策問題演習 ・共通テストレベルの問題に取り組み、基礎的な力を確認しよう。		
	11	問題演習	入試対策問題演習 ・共通テストレベルの問題に取り組み、基礎的な力を確認しよう。		
	12	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
第3学期	1	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
	2	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
	3				

【国語科 シラバス】

科目名	古典探究			使用 教材	教科書	精選 古典探究（大修館書店）
学 年	3	単位数	3		副教材	学習課題ノート（大修館書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 徹底理解高校漢文（東京書籍）
科・コース	普通科 特別選抜進学コース文系・特別進学コース文系					

【授業の概要】

古典などを読んで、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めたり、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高めたり、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させたりすることを目指します。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のうち、「読むこと」の配当時間のみの科目です。

【学習方法と授業の進め方】

古典としての古文及び漢文、日本漢文を扱います。文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを学び、作品や文章の歴史的・文化的背景などへの理解を深めます。また、異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動を行います。

【学習評価】

観点別評価		
評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしているか。</li> <li>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めているか。</li> <li>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めているか。</li> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めているか。</li> </ul>	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えているか。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか。</li> <li>・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察できたか。</li> <li>・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができたか。</li> <li>・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。</li> </ul>	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしているか。</li> <li>・進んで作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察しようとすることができたか。</li> <li>・進んで文語のきまりや古典特有の表現、漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって古典を学ぶ意義について考えを持とうとしているか。</li> </ul>	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読み、意味調べなどの予習は最低限やっておきましょう。
- ・こまめに辞書を引く習慣を身につけましょう。
- ・提出物の期限は厳守しましょう。
- ・積極的に読書をし、生活や人生について考えを深めましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	古典文法の確認 古文編Ⅱ 2 随筆	【読むこと】 枕草子「頭の弁の、職に参りたまひて」 ・基本文法事項（用言・助動詞・助詞）の確認をしよう。 ・作者独自の視点のものの見方、感じ方を味わおう。	5	
	5	古文編Ⅱ 4 日記	【読むこと】 蜻蛉日記「町の小路の女」 和泉式部日記「薫る香に」 ・文法事項（敬語の用法）の確認をしよう。 ・平安時代の宮廷生活や平安女性の生き方を考えよう。	5	
	6	漢文編Ⅱ 5 思想	【読むこと】 「老子」「韓非子」 ・基本漢文句形の確認 ・諸子百家のさまざまな思想を理解し、その現代的な意義を考えよう。	16	
	7	問題演習	入試対策問題演習 ・基本レベルの問題に取り組み、自分の課題を認識しよう。		
第2学期	9	問題演習	入試対策問題演習 ・基本レベルの問題に取り組み、さまざまな問題形式に慣れよう。		
	10	問題演習	入試対策問題演習 ・共通テストレベルの問題に取り組み、基礎的な力を確認しよう。		
	11	問題演習	入試対策問題演習 ・共通テストレベルの問題に取り組み、基礎的な力を確認しよう。		
	12	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
第3学期	1	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
	2	問題演習	入試対策問題演習 ・入試過去問題に取り組み、実践的な力を高めよう。		
	3				

## 【地歴科 シラバス】

科目名	地理探求			使用 教材	教科書	新詳地理探究（帝国書院）
学 年	3	単位数	3		副教材	新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料COMPLETE 2025（帝国書院） 新詳地理探究演習ノート（帝国書院） データブックオブ・ザ・ワールド 2025（二宮書店）
科・コース	普通科特選コース・特進コース(理系)					

### 【授業の概要】

- ・現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付けます。
- ・現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付けます。
- ・我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付けます。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ・授業は基本的には、講義及び対話形式です。教科書を中心に進めます。
- ・地図・グラフなど資料の分析を通じた論述・討論も行います。
- ・必要に応じ、映像などのビジュアル的要素を取り入れた授業も行います。
- ・単元によっては、ペアワークやグループワークなどによる授業展開（アクティブラーニング）や他教科と関連付けた学習を実施することもあります。

### 【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。</li> <li>・地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。</li> <li>・調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>・準拠ノート</li> <li>・課題プリントへの取り組み</li> <li>・ノートの作成状況</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</li> <li>・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の思考・応用問題（統計資料読解・論述問題）</li> <li>・準拠ノート</li> <li>・課題プリントやレポートへの取り組み</li> <li>・ノートの作成状況</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> <li>・地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・討論や発表</li> <li>・課題プリントやレポートへの取り組み</li> <li>・ノートの作成状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・年間5回実施される定期試験の結果が基本です、しっかり取り組みましょう。
- ・授業における発言・作業・意欲・出席状況も大切です。
- ・提出物（プリント・ノートなど）は期限を守って提出してください。
- ・日常的に国内外のニュースに興味を持つことから始めましょう。
- ・地図を見る、考える、プリントなど全ての作業が学習の一環です。授業に集中し、積極的・主体的に取り組みましょう。
- ・ノートは単に板書事項を書き写すだけでなく、授業中の話の内容もメモをとる習慣を身に付けましょう。
- ・分からないところ、疑問に思ったところは、授業以外でもどんどん質問して下さい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	第1部 現代世界の系統 地理的考察 第1章 自然環境 序説 地球環境と人間 1節 地形	・地球表面には、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形がみられる。それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているのだろうか。	13 14 15	
	5	2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題	・気候の違いを生む要因と人々の生活に与える影響はどのようなものか。 ・日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのだろうか。 ・地球環境問題を解決するためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいのだろうか。	13 14 15	
	6	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源	・農林水産業の変容と分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるのだろうか。 ・飽食や飢餓がみられるのは、どのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか。 ・世界のエネルギー・鉱産資源の偏在性と利用方と生産や消費の不均衡をなくすための取り組みについて。	1 2 7 9	
	7	4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業	・資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。 ・世界の工業はどのように発展し、どのように変わろうとしているのだろうか。 ・第3次産業の現状はどのようにになっているのだろうか。	7 8 9	
第2学期	9	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題	・交通網や通信網の発達には、傾向や地域性、地域間格差が現れているのだろうか。 ・観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのだろうか。 ・世界の貿易は拡大を続けているが、地域性や地域間格差が現れてきている。それはなぜなのだろうか。 ・世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるのだろうか。 ・先進国と発展途上国では、出生率の高低や高齢化の進行に、どのような違いが表れているのだろうか。	3 11 17	
	10	3節 村落と都市 4節 都市・居住問題  第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題	・人々はどのような場所に居住し、村落や都市を発達させてきたのだろうか。 ・世界の都市が持続的に発展していくためには、どのような課題があるのだろうか。それらを解決するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。 ・伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているのだろうか。 ・各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているのだろうか。 ・国家が新たに誕生したりすることで、どのような問題が起こっているのだろうか。	10 11	
	11	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国－項目ごとに整理して考察 2節 韓国－項目ごとに整理して考察 3節 ASEAN諸国－項目ごとに整理して考察	・第二次世界大戦後の中国は、経済発展が著しく、世界経済への影響も大きくなってきている。この節では、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理し、急速な経済発展に伴う地球的課題について考察しよう。 ・日本と地理的な距離に近い韓国は、急速な経済成長を遂げている。この節では、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。 ・古くから農業が盛んなASEAN諸国は、近年急速に工業化が進んでいる。この節では、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。	9 10 16	
	12	4節 インドー経済成長に関連づけて考察 5節 西アジアと中央アジアー地域を比較して考察	・インドは、近年、急速に経済が成長している国の一つである。この節では、インドの産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて考察しよう。	1 2	

		6 節 北アフリカとサハラ以南アフリカ地域を比較して考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアと中央アジア、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を考察しよう。</li> <li>・北アフリカとサハラ以南アフリカ、二つの地域を比較するとともに、一次産品への依存がもたらす地球的課題を考察しよう。</li> </ul>	3 8	
第3学期	1	7 節 EU 諸国－項目ごとに整理して考察 8 節 ロシア－国家体制の変化に関連づけて考察 9 節 アメリカ合衆国－項目ごとに整理して考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパの民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。</li> <li>・ロシアの国家体制の変化に着目して工業や農業の特徴をとらえ、資源・エネルギーをめぐる地球的課題を考察しよう。</li> <li>・アメリカ合衆国の地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理しつつ、多民族社会や移民に関する地球的課題を考察しよう。</li> </ul>	9 10 17	
		10 節 ラテンアメリカ－歴史的背景と関連づけて考察 11 節 オーストラリアとニュージーランド－国を比較して考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテンアメリカは、かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっている。この節では、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて考察しよう。</li> <li>・オーストラリアとニュージーランドには、南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられる。この節では二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を考察しよう。</li> </ul>	9 14 15 17	
	3	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1 節 将来の国土の在り方 2 節 持続可能な日本の国土像の探究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいのだろうか。</li> <li>・現代の日本の社会が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会を目指すためには、どのような国土の在り方が望ましいのだろうか。</li> </ul>	1~ 17	

## 【地歴科 シラバス】

科目名	日本史探究			使用	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）
学 年	3	単位数	4	教材	副教材	詳説日本史図録（山川出版社）
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

日本史探究は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の近世・近代以降の歴史に関わる諸事象について、地理的条件や世界の中の日本という立場から総合的に捉えて理解するとともに、歴史的な事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを広い視野で考察し、現代日本が抱えている課題を探究する科目です。社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ってグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。

### 【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。共通テスト7割以上の得点が取れるようになるためには、教科書の本文を歴史の流れを重視して、事件・出来事等の5W1Hを把握し体系的に理解することが必要です。

日本史探究は、2年次から引き続き4単位で学習する科目です。3年次では、近世から現代までの範囲を時代順に学習していきます。授業前に必ず教科書を読んで、授業範囲の理解を深めておきましょう。詳説日本史10分間テストや要点整理ゼミナールの問題を自力で解ける実力をつけることをはじめの目標にしてください。

### 【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識理解について、歴史の基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。</li> <li>歴史の変化・発展の背景には原因・結果の法則があることを理解できたか。</li> <li>諸資料を活用して的確な情報の収集・選択および読み取りや理解ができたか。</li> <li>近世・近代以降の日本社会が世界とのかかわりの中でどのように形成されたかの歴史的過程と生活・文化や社会の特徴についての基本的な事柄を理解できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>ノートの作成状況</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題への取り組みや提出状況</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史の変化・発展の背景には原因・結果の法則があることを説明できるか。</li> <li>諸資料の扱いについて、適切な情報を収集・選択・活用を通じて歴史的な事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題）</li> <li>ノートの作成状況</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題への取り組み</li> <li>発表・レポート提出</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史の流れや事象に興味を持ち、意欲的な態度で学習しているか</li> <li>自分と違う考え方の人と積極的に話し合うことで多面的なものの見方・考え方を理解し、歴史的なもの見方を身につけることができたか。</li> <li>現代社会の身近な諸問題と関連付けて、社会的な事象の歴史的な背景を理解し、言語活動等を通じて論理的に探究しようとする態度が身についたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>授業態度</li> <li>ノートの作成状況</li> <li>討論や発表やレポート提出</li> <li>提出課題への取り組み</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・予習 教科書を読み、どんなことを学ぶのかを把握する。家庭で予習し、まずは、わからないところを知る。
- ・授業 授業で学ぶ知識には構造があるので、丸暗記ではなく、関連性を持たせて理解する。
- ・復習 歴史の流れや原因・結果を考えながら教科書を読み、学んだことをその日のうちに理解する。わからないところは自ら調べ、友達や先生に質問する。
- ・演習 教科書の理解を深めるために、詳説日本史10分間テストや要点整理ゼミナールを単元終了ごとに活用する自宅で問題集を使って基礎・基本の定着や実力養成をはかること。
- ・ノート ノートは第2の記憶。早く見やすく書く。板書以外の口頭説明も必要に応じてメモをとると理解に役立つ。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第8章近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化 第9章幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定	・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と織豊政権の特色と意義及び桃山文化について、時代的背景を踏まえて考察する。 ・江戸幕府の成立、幕藩体制の構造及び確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	1 6	
	5	4 経済の発展 5 元禄文化 第10章幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化	・幕藩体制安定期の経済の発展や文化について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ・幕府や諸藩がおこなった改革の意義とその影響を考察する。文化について江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する		
	6	3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 第11章近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	・国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ・国際環境の変化に着目して、日本の開国・幕府滅亡・新政府の成立を社会・経済面での変化と関連づけて考察する。		
	7	第12章近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	・新政府の諸制度や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ・自由民権運動から立憲国家の成立の過程について多角的に考察する。	4 5 9 10	
第2学期	9	第13章近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	・不平等条約改正過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯、日露戦争の経過・戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響を欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	1 1	
	10	第14章近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	・資本主義国家の確立過程を、産業革命や近代産業の発展及び社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について理解する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会に着目し、大衆文化の特色を理解する。	9	
	11	第15章恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 第16章占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	・国際情勢の変化、戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺や恐慌から脱出し、国家主義高揚とともに五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。また、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、第二次世界大戦の惨禍に着目し、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する ・戦後の世界秩序の中で、占領政策・民主化政策、東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。	5 10 16	
	12	第17章高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ 第18章激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容 共通テスト	・独立後の日本国内政治、復興から高度経済成長に至る過程及び経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。 ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況及び、冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	8	
第3学期	1	共通テスト・私学入試問題	過去問や予想問題をやることで実力養成を図る。		
	2	まとめ			

## 【地歴科 シラバス】

科目名	世界史探究			使用 教材	教科書	世界史探究『詳説世界史』(山川出版社)
学 年	3	単位数	4	副教材	ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店)	
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。  
 ・諸外国の国際事情や宗教事情を含めた授業で、文化の多様性や現代社会の特質を広い視野から考察し、国際理解や国際感覚を身につけるようにします。

### 【学習方法と授業の進め方】

・2年次の世界史探究の続きとなります。基本的には、教科書中心の授業になります。必要に応じて、動画などをとり入れた授業も行います。諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、世界の歴史の大きな枠組みと流れを我が国の歴史と関連付けながら考察します。歴史は丸暗記をするだけの科目ではないので、5W1Hを意識して、歴史的な事象を時期や推移に着目し、類似や差異などを明確にし、事象同士の因果関係などで関連付けて多面的・多面的な理解を深めます。

### 【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか。</li> <li>諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができたか。</li> <li>課題やレポート作成において、的確に表現する方法を習得しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>ワークや問題集</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> <li>ノートの作成状況</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代社会とのつながりなどに着目できたか。</li> <li>歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。</li> <li>自分と違う考え方の人と話し合うことでより深く考察することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の思考・応用問題(資料読解・論述問題)</li> <li>ワークや問題集</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> <li>ノートの作成状況</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができたか。</li> <li>多面的・多角的に考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>討論や発表</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> <li>ノートの作成状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

・世界史は、個々の国や地域について時代順に追っていく「縦」と、世界全体の動きや出来事を同時代ごとに見ていく「横」、両方の視点が必要になります。したがって、教科書に載っている人物名や年号、事件などといった用語を覚えるということではなく、「歴史の流れ」や「原因と結果」をつかむようにして下さい。単に歴史的事項を暗記するのではなく、当時の社会状況と結びつけて捉えることが重要です。諸資料を活用し多面的・多角的に考察しましょう。  
 ・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	<b>第12章</b> <b>産業革命と環太平洋革命</b> 産業革命  アメリカ合衆国の独立と発展	○海外貿易が近世ヨーロッパに与えた影響○イギリス産業革命の世界経済・社会への影響 ○「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係 ○独立直後と今日のアメリカ合衆国の比較○アメリカ合衆国の独立が与えたヨーロッパ諸国への影響	4 10	
	5	フランス革命とナポレオンの支配  中南米諸国の独立	○革命中のフランス国家体制の変遷と革命が与えた諸外国への影響○人権宣言とアメリカ独立宣言の比較○ナポレオンの支配に対する人々の反応 ○ハイチ革命の特殊性○中南米諸国の独立運動とヨーロッパの情勢	4 10	
	6	<b>第13章</b> <b>イギリスの優位と欧米国民国家の形成</b> ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動  列強体制の動揺とヨーロッパの再編成  アメリカ合衆国の発展	○ウィーン体制とその動揺○19世紀イギリスの政治変革の特徴○イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想○1848年革命の展開と影響 ○クリミア戦争○19世紀後半のロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点○ドイツとイタリアの国民国家成立○ドイツ帝国とビスマルクの諸政策 ○アメリカの領土拡大と社会に与えた影響○南北戦争	5 10 16	
	7	<b>第14章</b> <b>アジア諸地域の動揺</b> 西アジア地域の変容  南アジア・東南アジアの植民地化  東アジアの激動	○オスマン帝国の動揺、列強への経済的な従属化、改革の成果と課題  ○イギリス東インド会社の機能の変化、イギリスによる直接統治の特徴○東南アジアの植民地化の経緯 ○清朝の危機の要因○中国の開港の背景および開港の進展○清朝による国内秩序の再建の試み○東アジア各地の開港と貿易の拡大○欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響	5 10 16	
第2学期	9	<b>第15章</b> <b>帝国主義とアジアの民族運動</b> 第2次産業革命と帝国主義  列強の世界分割と列強体制の二分化  アジア諸国の変革と民族運動	○帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化○ヨーロッパ列強が抱えていた国内事情と課題○国際労働運動の再燃 ○列強のアフリカの植民地化○太平洋地域の植民地化○20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化 ○日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響○清朝改革と辛亥革命○インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動	5 10 16	
	10	<b>第16章</b> <b>第一次世界大戦と世界の变容</b> 第一次世界大戦とロシア革命  ヴェルサイユ体制下の欧米諸国  アジア・アフリカ地域の民族運動	○バルカン半島情勢○第一次世界大戦の勃発○戦時外交と総力戦○第一次世界大戦がもたらした影響○ロシア革命の経緯と歴史的意義 ○ヴェルサイユ体制○第一次世界大戦後の西欧諸国○国際協調○イタリアにおけるファシズム体制成立○1920年代のソ連とアメリカの国内情勢 ○第一次世界大戦の東アジアへの影響○中国・朝鮮への日本の勢力拡大○国民政府による中国統一○第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカ・西アジア	5 10 16	
	11	<b>第17章</b> <b>第二次世界大戦と新しい国際秩序</b> 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 第二次世界大戦 新しい国際秩序の形成	○世界恐慌の背景と影響○ニューディール政策とブロック経済○ナチスドイツ体制の成立○ソ連の計画経済○日本と中国の全面戦争 ○ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開○独ソ戦と太平洋戦争の開戦○第二次世界大戦の終戦 ○戦後国際秩序の形成○冷戦開始と東西ヨーロッパの分断○中国の国共内戦○朝鮮戦争○藤庵アジア・南アジアの独立○中東問題	5 10 16	

	12	<b>第18章</b> <b>冷戦と第三世界の台頭</b> 冷戦の展開  第三世界の台頭とキューバ危機  冷戦体制の動揺	○冷戦下における米ソそれぞれの同盟網の広がり、核開発競争○冷戦の進展とアメリカ社会 ○西欧と日本の経済復興○スターリン死後のソ連と東欧 ○アジア・アフリカ新興諸国○キューバ革命の背景と影響○国際社会における核兵器の制限 ○米ソの代理戦争としてのベトナム戦争 ○1960年代のアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの変容	5 10 16	
第3学期	1	<b>第19章</b> <b>冷戦の終結と今日の世界</b> 産業構造の変容  冷戦の終結  今日の世界	○1970年代初頭における世界経済の転換○オイル＝ショックの各国への影響○1960～1970年代の中東○1970～1980年代に進んだ開発途上国の工業化 ○1970年代後半～80年代前半の米ソ○ソ連で始まった改革と東欧革命○東西対立の緩和 ○旧社会主義国で起こった民族運動や民族対立○冷戦終結後の東アジア諸国の変化○冷戦終結後も続く地域・民族紛争○経済における世界の一体化○21世紀始めにアメリカ合衆国が行った戦争○今日の国際関係の特徴	1 5 10 16	
	2	地中世界の課題の探究	まとめ		
	3				

## 【地歴科 シラバス】

科目名	日本史演習			使用 教材	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）
学 年	3	単位数	1	副教材	詳説日本史図録（山川出版社）	
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース（私立文系）					

### 【授業の概要】

日本史探究は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の近世・近代以降の歴史に関わる諸事象について、地理的条件や世界の中の日本という立場から総合的に捉えて理解するとともに、歴史的な事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを広い視野で考察し、現代日本が抱えている課題を探究する科目です。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ってグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。

### 【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。共通テスト7割以上の得点が取れるようになるためには、教科書の本文を歴史の流れを重視して、事件・出来事等の5W1Hを把握し体系的に理解することが必要です。  
日本史演習では、特にテーマ史（文化史・土地制度史等）を中心に勉強し、課題演習に取り組んでいきます。詳説日本史10分間テストや要点整理ゼミナールの問題を自力で解ける実力をつけることを目標にしてください。

### 【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識理解について、歴史の基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。</li> <li>・歴史の変化・発展の背景には原因・結果の法則があることを理解できたか。</li> <li>・諸資料を活用して的確な情報の収集・選択および読み取りや理解ができたか。</li> <li>・近世・近代以降の日本社会が世界とのかかわりの中でどのように形成されたかの歴史的過程と生活・文化や社会の特徴についての基本的な事柄を理解できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>・ノートの作成状況</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題への取り組みや提出状況</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の変化・発展の背景には原因・結果の法則があることを説明できるか。</li> <li>・諸資料の扱いについて、適切な情報を収集・選択・活用を通じて歴史的な事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題）</li> <li>・ノートの作成状況</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題への取り組み</li> <li>・発表・レポート提出</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の流れや事象に興味を持ち、意欲的な態度で学習しているか</li> <li>・自分と違う考え方の人と積極的に話し合うことで多面的なものの方見方・考え方を理解し、歴史的なものの方見方を身につけることができたか。</li> <li>・現代社会の身近な諸問題と関連付けて、社会的事象の歴史的な背景を理解し、言語活動等を通じて論理的に探究しようとする態度が身についたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・授業態度</li> <li>・ノートの作成状況</li> <li>・討論や発表やレポート提出</li> <li>・提出課題への取り組み</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・予習 教科書を読み、どんなことを学ぶのかを把握する。家庭で予習し、まずは、わからないところを知る。
- ・授業 授業で学ぶ知識には構造があるので、丸暗記ではなく、関連性を持たせて理解する。
- ・復習 歴史の流れや原因・結果を考えながら教科書を読み、学んだことをその日のうちに理解する。わからないところは自ら調べ、友達や先生に質問する。
- ・演習 教科書の理解を深めるために、詳説日本史10分間テストや要点整理ゼミナールを単元終了ごとに活用する自宅で問題集を使って基礎・基本の定着や実力養成をはかること。
- ・ノート ノートは第2の記憶。早く見やすく書く。板書以外の口頭説明も必要に応じてメモをとると理解に役立つ。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	事件・政変史…古代	飛鳥時代から平安時代までの主な事件や政変について問題演習		
	5	税制史・土地制度史	古代から近現代史の税制や土地制度についての問題演習		
	6	都市発達史・建築史・彫刻史・	飛鳥時代から鎌倉時代までの都の変遷、原始・古代から近代までの建築物・彫刻についての問題演習		
	7	絵画史・仏教史・神道史・	原始・古代から近代までの絵画・仏教・神道についての問題演習		
第2学期	9	窯業史・史学史・教育史	原始・古代から近代までの窯業・史学・教育についての問題演習		
	10	事件・政変史…中世	平安時代から室町時代までの主な事件や政変について問題演習		
	11	農業史・日中関係史	原始・古代から近代までの農業及び日中関係についての問題演習		
	12	日朝関係史・貿易史・	原始・古代から近代までの建日朝関係及び貿易についての問題演習		
第3学期	1	共通テスト・私学入試問題	過去問や予想問題をやることで実力養成を図る		
	2	まとめ			
	3				

## 【地歴科 シラバス】

科目名	世界史演習			使用	教科書	世界史探究『詳説世界史』(山川出版社)
学 年	3	単位数	1	教材	副教材	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店)
科・コース	普通科 特別進学選抜コース(私立文系)・特別進学コース(私立文系)・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。  
 ・諸外国の国際事情や宗教事情を含めた授業で、文化の多様性や現代社会の特質を広い視野から考察し、国際理解や国際感覚を身につけるようにします。

### 【学習方法と授業の進め方】

・問題演習を中心に進めます。諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、世界の歴史の大きな枠組みと流れを我が国の歴史と関連付けながら考察します。歴史は丸暗記をするだけの科目ではないので、5W1Hを意識して、歴史的な事象を時期や推移に着目し、類似や差異などを明確にし、事象同士の因果関係などで関連付けて多角的・多面的な理解を深めます。  
 ・大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。世界史演習では特にテーマ史(社会経済史・地域史・文化史等)を中心に学習し、諸演習に取り組んでいきます。詳説世界史10分間テストや要点整理ゼミナールの問題を自力で解ける実力をつけること、共通テスト7割以上の得点が取れることを目標とします。

### 【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか。</li> <li>諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができたか。</li> <li>課題やレポート作成において、的確に表現する方法を習得しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>ワークや問題集</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> <li>ノートの作成状況</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代社会とのつながりなどに着目できたか。</li> <li>歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。</li> <li>自分と違う考え方の人と話し合うことでより深く考察することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の思考・応用問題(資料読解・論述問題)</li> <li>ワークや問題集</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> <li>ノートの作成状況</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができたか。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>討論や発表</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> <li>ノートの作成状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

・世界史は、個々の国や地域について時代順に追っていく「縦」と、世界全体の動きや出来事を同時代ごとに見ていく「横」、両方の視点が必要になります。したがって、教科書に載っている人物名や年号、事件などといった用語を覚えるということではなく、「歴史の流れ」や「原因と結果」をつかむようにして下さい。単に歴史的事項を暗記するのではなく、当時の社会状況と結びつけて捉えることが重要です。諸資料を活用し多面的・多角的に考察しましょう。  
 ・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	テーマ史	○戦後史 冷戦時代の国際関係 新冷戦と連戦後の国際関係 戦後の南北アメリカ		
	5	テーマ史	○戦後史 戦後のソ連・ロシアと東ヨーロッパ 戦後の西アジア 戦後の東アジア		
	6	テーマ史	○戦後史 戦後の西ヨーロッパ 戦後のアフリカ 戦後の南アジア・東南アジア		
	7	テーマ史	○前近代の東南アジア史 ○前近代の朝鮮史		
第2学期	9	テーマ史	○中世ヨーロッパの社会・経済 ○中国の経済史		
	10	テーマ史	○文化史 オリエント文明／ギリシア・ヘレニズム・ローマ／古代インドの文化／ユダヤ教・キリスト教		
	11	テーマ史	○文化史 イスラーム／中世の文化とルネサンス／中国の文化／ヨーロッパ近世～近現代の文化		
	12	問題演習	共通テスト・私大問題演習（実力養成）		
第3学期	1	問題演習	共通テスト・私大問題演習（実力養成）		
	2	まとめ	まとめ		
	3				

## 【公民科 シラバス】

科目名	倫理			使用 教材	教科書	『高等学校新倫理』（清水書院）
学 年	3	単位数	2		副教材	最新図説『倫理』（浜島書店） 『高等学校新倫理ワークノート』（清水書院）
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース（文系）					

### 【授業の概要】

・「公共」の学習で身につけた資質・能力を基に、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う科目です。具体的には思想や文化、現代社会の特質について学びます。

・広い視野に立ち、人間尊重の精神と清明に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成します。

### 【学習方法と授業の進め方】

・講義形式の授業で青年期の課題や、古今東西の哲学者・思想家、宗教等の思想を具体的に学習します。原典資料の読み取り等を通して倫理的な見方や考え方を身に付け、読解力・思考力を培うことも重視するため。ディスカッションやレポートの提出を求めることもあります。内容の大部分を占める「思想」については哲学や宗教など古くから人類が関わってきた事柄をもとにして授業を展開していき、それらから普遍的な人間性についての理解を深めていきます。

### 【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・古今東西の幅広い知的知識を通して。現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているか。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・原典資料や芸術作品などからの読み取り ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
②思考・判断・表現	・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができ ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができたか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・原典資料や芸術作品などからの読み取り ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
③主体的に学習に取り組む態度	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようしたりしているか。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・討論や発表 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

・人間・存在・自己・人勢・世界などについて考えるという行為が重要な授業なので、ただ用語や人名を覚えるのではなく、自由な発想や旺盛な好奇心で授業に参加して下さい。資料を読み取る力も求められるので、先哲と向き合いながら自己や社会の課題について思索しましょう。教師の発問に対する積極的な発言を求めます。

・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	<b>現代を生きる自己の課題</b> 序章 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	○人間とは何か 1 心の機能と個性 2 パーソナリティの形成と「私」  1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達		
	5	<b>人間としての自覚</b> 第1章 哲学の起源：ギリシア思想  第2章 唯一神の宗教：キリスト教	1 神話から哲学へ～自然哲学者たち 2 知と徳をめぐる問い～ソクラテス 3 理想主義的なあり方～プラトン 4 現実主義的なあり方～アリストテレス 5 幸福をめぐる問い～ヘレニズムの思想  第1節 愛の教え～キリスト教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開	10	
	6	イスラーム教  第3章 東洋思想の源流：仏教	第2節 戒律と平等の教え～イスラーム教  第1節 知恵と慈悲の教え～仏教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏陀とその後の展開	10	
	7	儒教	第2節 仁と礼の教え～儒教 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想		
第2学期	9	<b>現代をかたちづくる倫理</b> 第1章 近代の成立  第2章 世界と人間をめぐる探究	第1節 人間の尊厳 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界  第2節 真理の認識～経験論と合理論 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重～ベーコン 3 理性の光～デカルト	4 5	
	10		第3節 民主社会と倫理 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由～カント 3 自己実現と自由～ヘーゲル		
	11		4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福  第4節 現代社会と個人 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平～実存主義		
	12		3 世界と存在そのものへ～減少額 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕  第5節 近代の世界観・人間観の問いなおし 1 理性主義への反省 2 言語論的転回 3 科学館の転換		
第3学期	1	<b>現代における諸課題の探究</b> 第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 第2章 社会や文化に関わる諸課題	1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の発展とその課題  1 文化や宗教の多様性と倫理 2 国際平和と人類の福祉	5,8, 16, 13, 14, 15	
	2	まとめ	まとめ		
	3				

## 【公民科 シラバス】

科目名	政治・経済			使用 教材	教科書 副教材	最新政治・経済(実教出版) 政治・経済資料 2025(とうほう)
学 年	3	単位数	2			
科・コース	普通科 特進私文系・国際					

### 【授業の概要】

日本の政治と国際政治及び日本経済と国際経済の基本的しくみを学びます。民主政治の本質の探求に始まり、政治と経済の関係、国家と市場の関係、民主主義と資本主義の関係などの問題について考えます。そして、現代の日本社会および国際社会のより良いあり方についての自らの態度を作り上げていきます。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ・教科書と資料集を使い政治・経済の基本事項の学習をすすめます。
- ・教科書で学んだ基本事項をもとに時事問題について学習します。
- ・ニュースや新聞記事を見る習慣を身につけます。
- ・時事問題に関する情報を収集し、意見をまとめて発表する能力を養います。

### 【学習評価】

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>・演習ノート</li> <li>・課題プリントへの取り組み</li> <li>・ノートの作成状況</li> </ul>
②思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の思考・応用問題(資料読解・論述問題)</li> <li>・演習ノート</li> <li>・課題プリントへの取り組み</li> <li>・ノートの作成状況</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・討論や発表</li> <li>・課題プリントへの取り組み</li> <li>・ノートの作成状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業の前に一度でも教科書を読んでおくと、理解度が増します。
- ・意味のわからない用語などは、資料集などを利用して調べてみよう。
- ・調べたことはまとめて書きとめておこう。
- ・TVのニュースを見たり、新聞を読む習慣を作ろう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	現代国家と民主政治	民主政治と法 民主政治の基本原理 民主政治のしくみと課題 世界のおもな政治制度		
	5	日本国憲法と基本的人権	日本国憲法の成立 日本国憲法の基本原理 自由に生きる権利 平等に生きる権利 社会権と参政権・請求権 新しい人権 人権の広がりや公共の福祉 平和主義と自衛隊 日米安全保障体制の変化 21世紀の平和主義	10 16	
	6	日本の政治制度と政治参加	政治機構と国会 内閣と行政機能の拡大 公正な裁判の保障 地方自治と住民福祉 政党政治 選挙制度 世論と政治参加	10	
	7	現代の経済社会	経済活動の意義 経済社会の変容 経済主体と市場の働き 企業の役割 国民所得 経済成長と国民の福祉 金融の役割 日本銀行の役割 財政の役割と租税 日本の財政の課題	8	
第2学期	9	現代の日本経済と福祉の向上	日本経済の成長と課題 中小企業と農業 消費者問題 公害防止と環境保全 労働問題と労働者の権利 こんにちの労働問題 社会保障の役割と課題	13	
	10	日本経済のあゆみとこれから	持続可能な地域社会のあり方を考える 地域における防災を考える 財政健全化を考える 起業を考える 持続可能な農業を考える ワーク・ライフ・バランスの実現を考える 持続可能な福祉社会の実現を考える		
	11	国際政治の動向と課題	国際社会と国際法 国際社会の変化 国際連合と国際協力 こんにちの国際政治 人種・民族問題 軍拡競争から軍縮へ 日本の外交と国際社会での役割	17	
	12	国際経済理論 国際経済の動向と課題	貿易と国際収支 外国為替市場のしくみ 第二次世界大戦後の国際経済 国際経済の動向 新興国の台頭 経済のグローバル化と ICT でかわる世界経済	8	
第3学期	1		発展途上国の課題と展望 地球環境問題、資源エネルギー問題 経済協力と日本の役割	17	
	2	SDGsの実現に向けて	難民問題を考える 外国人労働者との共生を考える 自動運転技術を考える 地球環境問題、資源エネルギー問題を考える 国際経済格差の是正と国際協力を考える 持続可能な平和のあり方を考える		
	3				

## 【数学科 シラバス】

科目名	数学Ⅲ			使用 教材	教科書	数学Ⅲ（数研出版）
学 年	3	単位数	3		副教材	4step 数学Ⅲ（特進選抜） クリアー数学Ⅲ（特進）
科・コース	普通科 特別選抜コース・特別進学コース 理系					

### 【授業の概要】

高校の数学はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cの6科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学Ⅲでは、関数、極限、微分法、積分法などを学びます。

### 【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

### 【学習評価】

年5回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを2冊準備してください。

【予習】 事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。

【授業】 予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。

【復習】 自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】 後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。

予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄		
第1学期	4	<数学Ⅲ> ・微分法	微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数	4			
	5	・微分法の応用 導関数の応用  速度と近似式	接線と法線 平均値の定理 関数の値の変化 関数の最大と最小 関数のグラフ 方程式, 不等式への応用 速度と加速度 近似式				
	6	・積分法 不定積分 定積分	不定積分とその基本性質 置換積分法 部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 定積分の置換積分法 定積分の部分積分法				
	7	・積分法の応用	面積 体積 曲線の長さ 速度と道のり				
第2学期	9	入試演習	入試演習				
	10	入試演習	入試演習				
	11	入試演習	入試演習				
	12	入試演習	入試演習				
第3学期	1	入試演習	入試演習				
	2						
	3						

※自己評価（観点別評価） A：十分理解した B：ほぼ理解した C：不十分である

## 【数学科 シラバス】

科目名	数学 C			使用 教材	教科書	数学 C (数研出版)
学 年	3	単位数	2		副教材	4step 数学 C (特進選抜) クリアー数学 C (特進)
科・コース	普通科 特別選抜コース・特別進学コース 文系					

### 【授業の概要】

高校の数学は I・II・III・A・B・C の 6 科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学 C では、ベクトル、複素数平面、2 次曲線などを学びます。

### 【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

### 【学習評価】

年 5 回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを 2 冊準備してください。

【予習】 事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。

【授業】 予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。

【復習】 自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】 後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。

予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	<数学C> ・空間ベクトル	空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルの図形 座標空間における図形	4	
	5	・複素数平面	複素数平面 複素数の極形式と乗法, 除法 ド・モアブルの定理 複素数と図形		
	6	・式と曲線 2次曲線	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質		
	7	・媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式		
第2学期	9	入試演習	入試演習		
	10	入試演習	入試演習		
	11	入試演習	入試演習		
	12	入試演習	入試演習		
第3学期	1	入試演習	入試演習		
	2				
	3				

## 【数学科 シラバス】

科目名	数学 C			使用 教材	教科書	数学 C (数研出版)
学 年	3	単位数	2		副教材	4step 数学 C (特進選抜) クリアー数学 C (特進)
科・コース	普通科 特別選抜コース・特別進学コース 理系					

### 【授業の概要】

高校の数学はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cの6科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学 C では、ベクトル、複素数平面、2次曲線などを学びます。

### 【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

### 【学習評価】

年5回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを2冊準備してください。

【予習】 事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。

【授業】 予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。

【復習】 自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】 後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。

予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	<数学C> ・空間ベクトル	空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルの図形 座標空間における図形	4	
	5	・複素数平面	複素数平面 複素数の極形式と乗法, 除法 ド・モアブルの定理 複素数と図形		
	6	・式と曲線 2次曲線	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質		
	7	・媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式		
第2学期	9	入試演習	入試演習		
	10	入試演習	入試演習		
	11	入試演習	入試演習		
	12	入試演習	入試演習		
第3学期	1	入試演習	入試演習		
	2				
	3				

## 【理科 シラバス】

科目名	物理			使用教材	教科書	物理（数研出版）
学年	3	単位数	3	副教材	リードα物理（数研出版）	
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース					

### 【授業の概要】

力と運動や電磁気、分子の運動などの見方・考え方を単なる知識として受け入れるのではなく、背景となっている物理法則を体系的に理解する科目です。目的意識をもって観察、実験を行うことなどを通して、物理学的に探究するために必要な資質・能力を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成します。

### 【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。国公立2次や私大入試で合格点が取れるようになるには、教科書の本文を前後の法則の関連性を重視して体系的に理解することが必要です。教科書がすべて終了したとき、難解と思われる問題を解くイメージを自力で作れるようになるはずです。年間を通じて、ある程度の量の演習が必要です。暗記型の対応は通じず、理解は一個人の不断の学習でなされます。気長で根気ある学習姿勢を身に付けて努力しましょう。授業だけでは教科書を終了させる時間が不足するので、登校講座や合宿講座で補います。特に、章末問題を自力で解ける実力を目標とします。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。</li> <li>自然現象を定量的に考察するため、物理量（概念）を定義し、利用することが理解できたか。</li> <li>観察や実験の技能を修得できたか。</li> <li>観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>課題への取り組み</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できるか。</li> <li>観察や実験を通して、物理現象を論理的に分析し、問題を解決し、実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。</li> <li>課題や実験のレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題）</li> <li>課題への取り組み</li> <li>観察・実験等</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然現象に関心を持ち、科学的な見方をしているか。</li> <li>授業、実験に意欲的に参加し、論理的に探究しようとする態度が見えるか。</li> <li>学習内容について振り返り、日常生活や社会に生かそうとしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>観察・実験・発表等</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

・予習は教科書を読み、どんな現象を扱うのか大雑把に把握しておきましょう。  
 ・復習は授業で出てきた法則や公式を、自分で導き出して紙に書いてみましょう。もちろんノートを見ながらで構いません。法則が導かれる手順を学ぶことが大切です。ものごとを順序よく考える力にもつながります。考え方のプロセスを学習することも物理を学ぶねらいだと捉えると、普段の授業の受け方や勉強の取り組み方も変わってくるはずです。それでもわからなくなってしまう、というのはよくあることです。そういうときはもう1度教科書に目を通してみましょう。また遠慮せず物理の先生に聞きに行きましょう。わからないところをウヤムヤにせず、その場で徹底的につぶすことが重要です。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	2編 波 1章 波の伝わり方 1節 波の表し方 A 波の表し方 2節 波の伝わり方 A 波面と射線 B 回折 C 反射 D 屈折 E ホイヘンスの原理 F 干渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>波のようすを伝えるためにはどのように表せばよいか考える。</li> <li>正弦波の表し方について理解する。</li> <li>正弦波の式における位相について理解する。</li> <li>水波投影機でさまざまな波のようすを観察する（実験が難しい場合は、二次元コードから動画を視聴）。</li> <li>平面波や球面波について理解する。</li> <li>波の性質である回折・反射・屈折について理解する。</li> <li>波の進み方を説明したホイヘンスの原理について理解する。</li> <li>ホイヘンスの原理を用いた反射の法則や屈折の法則の説明について理解する。</li> <li>2つの波源から生じた球面波の干渉について、強め合う条件や弱め合う条件を理解する。</li> </ul>	9	
	5	2章 音 1節 音の性質 A 音の性質 2節 ドップラー効果 A 音源または観測者のどちらかが動く場合 B 音源と観測者がともに動く場合 C 音の反射とドップラー効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の写真を参考に、音の性質が身のまわりで見られる場面を探す。</li> <li>物理基礎で学習した音の反射に加え、音の屈折・回折・干渉について理解する。</li> <li>飛行機やサーキット場での飛行機やレーシングカーの音の聞こえ方や踏切を通過する前後での警報音の聞こえ方について考える。</li> <li>ドップラー効果とはどのような現象か理解する。</li> <li>音源のみが動く場合のドップラー効果がどのように表されるか理解する。</li> <li>観測者が動く場合のドップラー効果がどのように表されるか理解する。</li> <li>音源と観測者が動く場合のドップラー効果がどのように表されるか理解する。</li> <li>音が反射するときにもドップラー効果が観測されること、観測者が聞く音の振動数がどのように表されるか理解する。</li> <li>風があるときのドップラー効果がどのように表されるか理解する。</li> <li>観測者と音源の位置関係が斜めのときに、ドップラー効果がどのように表されるか理解する。</li> </ul>	9	
	6	3章 光 1節 光の伝わり方 A ものが見えるということ B 光の速さ C 反射と屈折 D 全反射 E 分散 F 偏光 G 散乱 2節 光の回折と干渉 A 光の回折と干渉 B 回折格子 C 薄膜による干渉 D 空気層による干渉 3節 レンズと鏡 A レンズを通る光の進み方 B 凸レンズによる像 C 凹レンズによる像 D 組み合わせレンズ E レンズの式 F 平面鏡と球面鏡 G 球面鏡による像 H 球面鏡の式	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ものが見える」とはどのようなことか考え、光とは何かについて考える。</li> <li>可視光線の波長の違いを色の違いとして認識していることについて理解する。</li> <li>単色光と白色光の違いについて理解する。</li> <li>光の速さについて、歴史的な背景とともに理解する。</li> <li>光の反射と屈折について、反射の法則や屈折の法則が成り立つことを理解する。</li> <li>絶対屈折率がより小さい媒質へ進むときに、全反射が起こることについて理解する。</li> <li>白色光が屈折率の違いによって波長ごとに分かれることを分散ということ、分かれた色の模様をスペクトルということを理解する。</li> <li>スペクトルには連続スペクトルと線スペクトルがあることを理解する。</li> <li>特定の方向に振動する光を偏光ということを理解する。</li> <li>光が微粒子に当たると四方に広がる現象を散乱ということ、空が青く見えたり夕焼けに見えたりする理由が散乱であることを理解する。</li> <li>身のまわりで虹色に見える現象が光の性質（回折・干渉）によるものであることを知る。</li> <li>光も波の性質である回折が見られることを理解する。</li> <li>ヤングの実験とはどのような実験か知り、光が干渉するとき</li> </ul>	9	

		<p>の強め合う条件や弱め合う条件について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果を通して、光が回折・干渉していることを確認する。</li> <li>・回折格子による光の干渉条件について理解する。</li> <li>・回折格子とはどのようなものか知る。</li> <li>・光が異なる媒質を進むときの速さや位相の変化について理解する。</li> <li>・光が薄膜に入射するとき干渉する条件について、垂直に入射するときと斜めに入射するときに分けて理解する。</li> <li>・光が空気層に入射するときの干渉条件について、くさび型空気層、ニュートンリングを例に理解する。</li> <li>・望遠鏡で遠くの物体を拡大できる理由について考える。</li> <li>・レンズには凸レンズや凹レンズがあることを知り、光（光線）が入射したときの光の進み方について理解する。</li> <li>・凸レンズによる実像のでき方について理解し、写像公式や倍率について理解する。</li> <li>・凸レンズによる虚像のでき方について理解する。</li> <li>・虫眼鏡の倍率について知る。</li> <li>・凹レンズによる像のでき方について理解する。</li> <li>・顕微鏡や望遠鏡のような2枚のレンズを組み合わせている機器について、像のでき方を理解する。</li> <li>・レンズについて、レンズから物体までの距離と焦点距離、レンズから像までの距離との関係について理解し、レンズの式や倍率について理解する。</li> <li>・平面鏡や球面鏡での光の進み方について理解する。</li> <li>・凹面鏡による実像、凹面鏡や凸面鏡による虚像のでき方について理解する。</li> <li>・球面鏡について、球面鏡から物体までの距離と焦点距離、球面鏡から像までの距離との関係について理解し、球面鏡の式、倍率について理解する。</li> </ul>		
7	<p>3編 電気と磁気 1章 電場と電位 1節 静電気 A 静電気 B 電気量保存の法則 C クーロンの法則 2節 電場（電界） A 電場（電界） B 点電荷がつくる電場 C 電気力線 D 電気力線と電場の強さ 3節 電位 A 静電気力による位置エネルギー B 電位と電位差 C 点電荷のまわりの電位 4節 電場の中の物体 A 電場の中の導体 B 電場の中の不導体 5節 コンデンサー A 電気を蓄える B コンデンサーの電気容量 C コンデンサーに蓄えられるエネルギー D コンデンサーの接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりで体験したことのある静電気の現象について考える。</li> <li>・物理基礎で学習した静電気や原子の構造について復習する。</li> <li>・物体が帯電するときのしくみやきまりについて理解する。</li> <li>・2つの点電荷が及ぼし合う静電気力について理解する。</li> <li>・すでに学習した万有引力とクーロン力（静電気力）との類似点や相違点について考える。</li> <li>・電場とは何かについて理解し、電場の表し方や電場中の点電荷が受ける力について理解する。</li> <li>・点電荷がつくる電場について理解し、複数の点電荷がある場合の電場の表し方について理解する。</li> <li>・電場を表すときに電気力線を用いることができること、電気力線の性質について理解する。</li> <li>・一様な電場について理解する。</li> <li>・電気力線の本数で電場の強さを表せること（ガウスの法則）を理解し、ガウスの法則が適用できる場合について理解する。</li> <li>・電子顕微鏡で電子を加速している原理について考える。</li> <li>・重力による位置エネルギーと比較しながら、静電気力による位置エネルギーについて理解する。</li> <li>・電位とは何かについて理解し、電位差の表し方について理解する。</li> <li>・一様ではない電場中での静電気力がする仕事や静電気力による位置エネルギーについて理解する。</li> <li>・等電位面（線）と、電気力線、静電気力がする仕事との関係について理解する。</li> <li>・点電荷のまわりの電位について理解し、複数の点電荷がある場合の電位の表し方について理解する。</li> <li>・導電紙を用いて、等電位線を確認する。</li> <li>・工場の排煙装置で静電気を利用しているものについて、どのようなしくみであるか考える。</li> <li>・導体に帯電体を近づけたときのような静電誘導と電場内</li> </ul>	9	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>に導体を入れたときのようなすについて理解する。</li> <li>箔検電器を用いて、帯電体の正・負を調べる実験を行う。</li> <li>接地や静電遮蔽について理解する。</li> <li>不導体に帯電体を近づけたときのようなす（誘電分極）と電場内に不導体を入れたときのようなすについて理解する。</li> <li>AEDのしくみについて調べ、高電圧を蓄えるしくみについて考える。</li> <li>コンデンサーの種類や充電・放電のしくみについて理解する。</li> <li>コンデンサーに蓄えられる電気量について理解し、平行板コンデンサーの電気容量について理解する。</li> <li>コンデンサーにおける誘電体のはたらきやコンデンサーの耐電圧について理解する。</li> <li>コンデンサーに蓄えられるエネルギーについて理解する。</li> <li>コンデンサーを直列接続や並列接続したときの電気容量（合成容量）について理解する。</li> </ul>		
第2学期	9	2章 電流 1節 電流 A 電気抵抗の温度変化 2節 直流回路 A 起電力と電位降下（電圧降下） B キルヒホッフの法則 C 電池の内部抵抗と端子電圧 D 電流計・電圧計の内部抵抗 E 抵抗・起電力の測定 F コンデンサーを含む回路 G 半導体	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの導線や送電線に使われている素材について考える。</li> <li>物質の抵抗率が温度によって変化することについて理解する。</li> <li>電圧と電流が比例しない非線形抵抗について理解する。</li> <li>物理基礎で学習した電流の大きさやオームの法則、ジュール熱について、自由電子の運動の視点から理解する。</li> <li>電気回路で用いられる素子について、どのような素子がどのような目的で使用されているか考える。</li> <li>電気回路における電位と電流の関係について理解する。</li> <li>複数の電源や抵抗などからなる回路における法則（キルヒホッフの法則）について理解する。</li> <li>電池に複数の豆電球（抵抗）を接続すると、電池の端子電圧が小さくなることを知り、端子電圧と電流にはどのような関係があるか調べる実験を計画する。</li> <li>実験結果をふまえて、電池には内部抵抗があること、内部抵抗の電位降下分だけ端子電圧が小さくなることを理解する。</li> <li>電流計や電圧計がどのようにして電流や電圧を測定しているか、その構造やしくみを理解する。</li> <li>抵抗値や起電力を正確に測定する方法について理解する。</li> <li>直流回路におけるコンデンサーの振る舞いについて理解する。</li> <li>半導体や半導体を利用した素子について、そのしくみや利用について理解する。</li> <li>半導体を利用した素子であるトランジスタについて動作原理や利用のされ方について知る。</li> </ul>	9	
	10	3章 電流と磁場 1節 磁場（磁界） A 磁力（磁気力）と磁気量 B 磁場（磁界）の向きと強さ C 磁力線 D 磁性の起源 2節 電流がつくる磁場 A エルステッドの発見 B 直線状の電流がつくる磁場 C 曲線状の電流がつくる磁場 3節 電流が磁場から受ける力（電磁力） A 電流が磁場から受ける力 B 電磁力を基準として磁場を表す C 磁束 D 平行電流が及ぼし合う力 4節 ローレンツ力 A ローレンツ力 B 磁場中の荷電粒子の運動 C ホール効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学習した万有引力や静電気力と磁力との類似点や相違点について考える。</li> <li>磁石にはたらく磁力について理解する。</li> <li>磁場とは何かについて理解し、磁場の表し方について理解する。</li> <li>磁場を表すときに磁力線を用いることができること、磁力線の性質について理解する。</li> <li>物質が磁性をもつしくみについて理解する。</li> <li>地磁気の成因が電流によるものであるダイナモ理論について知り、電流と磁場についての関係を考える。</li> <li>エルステッドの実験について知る。</li> <li>直線状の電流がつくる磁場について理解する。</li> <li>ビオ・サバルの法則を知り、直線状の電流がつくる磁場について理解を深める。</li> <li>円形電流やソレノイドを流れる電流のような曲線状の電流がつくる磁場について理解する。</li> <li>スピーカーやイヤホン为例に、磁石とコイルで電気振動を音に変えるしくみについて考える。</li> <li>磁場中の電流が力を受けることを理解し、右ねじの法則やフ</li> </ul>	9	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>レミングの左手の法則について理解する。</li> <li>・磁束密度とは何かについて理解し、磁束密度を用いた磁場の表し方について理解する。</li> <li>・磁束密度と磁束の関係について理解する。</li> <li>・平行電流が及ぼし合う力について理解する。</li> <li>・オーロラの発生原理を調べ、なぜ北極圏や南極圏でよく見られるのか考える。</li> <li>・磁場中を運動する荷電粒子にはたらく力（ローレンツ力）について理解する。</li> <li>・ローレンツ力を受ける荷電粒子の運動について理解する。</li> <li>・磁場中の導体に電流を流したときのホール効果について理解する。</li> <li>・身のまわりでホール効果の利用例を知る。</li> </ul>		
11	<p>4章 電磁誘導と電磁波</p> <p>1節 電磁誘導</p> <p>A 電磁誘導</p> <p>B 電磁誘導はどのように説明されるか</p> <p>C 電磁誘導とエネルギー保存の法則</p> <p>D 渦電流</p> <p>2節 自己誘導と相互誘導</p> <p>A 自己誘導</p> <p>B コイルを含む回路</p> <p>C コイルに蓄えられるエネルギー</p> <p>D 相互誘導</p> <p>3節 交流</p> <p>A 交流</p> <p>B 抵抗と交流</p> <p>C コイルと交流</p> <p>D コンデンサーと交流</p> <p>E RLC直列回路</p> <p>F 電気振動</p> <p>4節 電磁波</p> <p>A 誘導電場と誘導磁場</p> <p>B 電磁波の発生</p> <p>C 電磁波の性質</p> <p>D 電磁波の種類</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカーと同じように磁石とコイルで構成されているマイクが音を電気信号に変えているしくみについて考える。</li> <li>・これまでに学習した電磁誘導について、誘導起電力の大きさや向きはコイルの巻数やコイルを貫く磁束の時間変化とどのような関係にあるか調べる方法を考える。</li> <li>・実験結果をふまえて、電磁誘導の法則やコイルに生じる誘導起電力の表し方について理解する。</li> <li>・電磁誘導が生じる理由をコイルが動く場合と磁石が動く場合に分けて理解する。</li> <li>・電磁誘導とエネルギーの関係について理解する。</li> <li>・渦電流について理解する。</li> <li>・ワイヤレス充電器で充電ができるしくみについて考える。</li> <li>・コイル自身を流れる電流の変化による磁場の変化によって電磁誘導が起こることを理解し、その際の誘導起電力の表し方について理解する。</li> <li>・直流回路におけるコイルの振る舞いについて理解する。</li> <li>・コイルに蓄えられるエネルギーについて理解する。</li> <li>・2つのコイルによる相互誘導について理解する。</li> <li>・家庭に供給されている100Vの交流電圧をオシロスコープで見ると、最大値が140Vになっている理由について考える。</li> <li>・交流電圧の発生させ方と表し方について理解する。</li> <li>・交流回路における抵抗・コイル・コンデンサーの振る舞いについて理解する。</li> <li>・変圧器の構造と原理について理解する。</li> <li>・RLC直列回路に交流電圧を加えたときのようなすを理解し、インピーダンスやベクトル表記について理解する。</li> <li>・RLC直列共振回路について理解する。</li> <li>・RLC並列回路に交流電圧を加えたときのようなすを知り、理解を深める。</li> <li>・充電されたコンデンサーとコイルを接続したときの電気振動について理解する。</li> <li>・アンテナが電波を受信・送信するしくみを調べる。また、電磁波とは何か考える。</li> <li>・誘導電場、誘導磁場について理解する。</li> <li>・電磁波が発生するしくみについて理解する。</li> <li>・電磁波の性質について理解する。</li> <li>・電波発生器と電波検出器を用いて、電波（電磁波）の性質について確かめる。</li> <li>・電磁波の種類や波長の違いによる用途について理解する。</li> </ul>	9	
12	<p>4編 原子</p> <p>1章 電子と光</p> <p>1節 電子</p> <p>A 陰極線</p> <p>B 電子の比電荷</p> <p>C 電気素量</p> <p>2節 光の粒子性</p> <p>A 光電効果</p> <p>B 光子（光量子）と光電効果</p> <p>C 電子ボルト</p> <p>3節 X線</p> <p>A X線の発生</p> <p>B X線の波動性</p> <p>C X線の粒子性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカーと同じように磁石とコイルで構成されているマイクが音を電気信号に変えているしくみについて考える。</li> <li>・これまでに学習した電磁誘導について、誘導起電力の大きさや向きはコイルの巻数やコイルを貫く磁束の時間変化とどのような関係にあるか調べる方法を考える。</li> <li>・実験結果をふまえて、電磁誘導の法則やコイルに生じる誘導起電力の表し方について理解する。</li> <li>・電磁誘導が生じる理由をコイルが動く場合と磁石が動く場合に分けて理解する。</li> <li>・電磁誘導とエネルギーの関係について理解する。</li> <li>・渦電流について理解する。</li> <li>・ワイヤレス充電器で充電ができるしくみについて考える。</li> </ul>	9	

		<p>4節 波動性と粒子性</p> <p>A 物質波と電子線の回折・干渉</p> <p>B 量子力学とハイゼンベルクの不確定性原理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コイル自身を流れる電流の変化による磁場の変化によって電磁誘導が起こることを理解し、その際の誘導起電力の表し方について理解する。</li> <li>・直流回路におけるコイルの振る舞いについて理解する。</li> <li>・コイルに蓄えられるエネルギーについて理解する。</li> <li>・2つのコイルによる相互誘導について理解する。</li> <li>・家庭に供給されている100Vの交流電圧をオシロスコープで見ると、最大値が140Vになっている理由について考える。</li> <li>・交流電圧の発生させ方と表し方について理解する。</li> <li>・交流回路における抵抗・コイル・コンデンサーの振る舞いについて理解する。</li> <li>・変圧器の構造と原理について理解する。</li> <li>・RLC直列回路に交流電圧を加えたときのようすを理解し、インピーダンスやベクトル表記について理解する。</li> <li>・RLC直列共振回路について理解する。</li> <li>・RLC並列回路に交流電圧を加えたときのようすを知り、理解を深める。</li> <li>・充電されたコンデンサーとコイルを接続したときの電気振動について理解する。</li> <li>・アンテナが電波を受信・送信するしくみを調べる。また、電磁波とは何か考える。</li> <li>・誘導電場、誘導磁場について理解する。</li> <li>・電磁波が発生するしくみについて理解する。</li> <li>・電磁波の性質について理解する。</li> <li>・電波発生器と電波検出器を用いて、電波（電磁波）の性質について確かめる。</li> <li>・電磁波の種類や波長の違いによる用途について理解する。</li> </ul>		
第3学期	1	<p>2章 原子と原子核</p> <p>1節 原子の構造</p> <p>A 原子核の発見</p> <p>B 水素原子のスペクトル</p> <p>C 水素原子のボーア模型</p> <p>2節 原子核</p> <p>A 原子核の構成</p> <p>B 同位体</p> <p>C 統一原子質量単位</p> <p>D 原子量</p> <p>3節 原子核の崩壊</p> <p>A 原子核の崩壊と放射線</p> <p>B 半減期と崩壊系列</p> <p>C 放射線の性質とその利用</p> <p>4節 核反応と核エネルギー</p> <p>A 核反応</p> <p>B 等価性と結合エネルギー</p> <p>C 核分裂</p> <p>D 核融合</p> <p>5節 素粒子</p> <p>A 物質の階層構造</p> <p>B 素粒子の分類</p> <p>C 4つの基本的な力</p> <p>D 素粒子の反応</p> <p>E 標準模型</p> <p>F 素粒子と宇宙</p> <p>終章 物理学が築く未来</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子核を人工的につくり出すことができることを知り、どのように多くの種類の原子核を区別しているのか考える。</li> <li>・原子核の構成について理解し、その表し方を理解する。</li> <li>・同じ元素でも質量の異なる原子が存在することを理解する。</li> <li>・原子の質量の表し方について理解する。</li> <li>・原子量について理解する。</li> <li>・マンモスを例に、古代の生物の生きていた時代がわかる理由について考える。</li> <li>・放射線の種類や特徴について理解する。</li> <li>・放射性原子核の半減期について理解する。</li> <li>・放射性原子核は安定した原子核になるまで放射性崩壊が連続的に続くこと、また、それらをまとめた系列について理解する。</li> <li>・放射線の性質と利用について理解する。</li> <li>・太陽で起こっている反応やこれと同等のエネルギーを取り出す方法について調べ、安全に利用し続けていくことについて考える。</li> <li>・核反応について理解する。</li> <li>・エネルギーと質量の等価性について理解する。</li> <li>・核反応におけるエネルギーについて理解する。</li> <li>・核分裂について理解する。</li> <li>・核融合について理解する。</li> <li>・スーパーカミオカンデについてどのような観測（研究）が行われているか調べる。</li> <li>・物質の構成要素について理解する。</li> <li>・素粒子の種類や性質について理解する。</li> <li>・自然界に存在する基本的な4つの力について、その力を媒介する粒子とともに理解する。</li> <li>・素粒子の反応について理解する。</li> <li>・標準模型という素粒子理論について理解する。</li> <li>・宇宙の始まりから素粒子の誕生、基本的な力の進化について宇宙の進化モデルをもとに理解する。</li> </ul> <p>・先端の物理学の理論や成果、今後発展が期待されている物理学の研究やその応用について事例をもとに知る。</p>	7 9 13	
	2				
	3				

## 【理科 シラバス】

科目名	化学			使用 教材	教科書 副教材	化学（数検出版） ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍)
学 年	3	単位数	3			
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース					

### 【授業の概要】

化学基礎で学んだ身の回りの物質の性質をさらに詳しく学び、身近で起こる化学変化と結びつけて、生命と生活に関係する物質について具体的に学習する科目です。

### 【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。国公立2次や私大入試で合格点が取れるようになるには、教科書の本文を前後の法則の関連性を重視して体系的に理解することが必要です。教科書がすべて終了したとき、難解と思われる問題を解くイメージを自力で作れるようになるはずですが、年間を通じて、ある程度の量の演習が必要です。暗記型の対応は通じず、理解は一個人の不断の学習でなされます。気長で根気ある学習姿勢を身に付けて努力しましょう。授業だけでは教科書を終了させる時間が不足するので、登校講座や土曜講座で補います。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。</li> <li>観察や実験の技能を修得できたか。</li> <li>観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の知識・理解に関する問題</li> <li>課題への取り組み</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな化学反応を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できるか。</li> <li>観察や実験を通して、化学反応を論理的に分析し、問題を解決し、実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。</li> <li>課題や実験のレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題）</li> <li>課題への取り組み</li> <li>観察・実験等</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然現象や身近にある化学的な事象に関心を持ち、科学的な見方をしているか。</li> <li>授業、実験に意欲的に参加し、論理的に探究しようとする態度が見えるか。</li> <li>学習内容について振り返り、日常生活や社会に生かそうとしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>観察・実験・発表等</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・ 2年次の化学基礎、化学からの続きの内容です。化学基礎内容をしっかりと理解していないと、化学の授業内容を理解することが困難になります。化学式、化学反応式、物質質量計算等の基本事項は確実に定着させましょう。
- ・ 3年次の化学では有機化学から始め、1学期に教科書内容を全て終わらせる予定です。入試に対応するために、補習や講座等で教科書内容を補填していきます。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分析	本章では有機化合物の特徴とその分類、表し方について理解する。また有機化合物を構成する成分元素の検出と元素分析についても理解する。 "有機化合物の特徴とその分類方法を理解する。特に、官能基による分類や構造異性体、有機化合物の表し方(分子式、構造式など)について理解する。 "有機化合物の分析の手順を理解した上で、成分元素の検出と元素分析について理解する。特に、元素分析については組成式および分子式の求め方まで理解する。		
	5	第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 4 エステルと油脂	「化学基礎」では、共有結合に関連して幾つかの有機化合物について学習をしている。本章では脂肪族炭化水素の性質や反応を、単結合、二重結合、三重結合などの分子の構造と関連付けながら理解する。 本章では、酸素を含む有機化合物(アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル)において、炭素骨格および官能基によりその性質が特徴づけられることを理解する。また、それぞれの反応性や構造と関連付けながら、これらの化合物は相互に関わっていることを理解する。	7	
	6	第4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類と芳香族カルボン酸 3 芳香族アミンとアゾ化合物 4 有機化合物の分離	本章では、ベンゼン環をもつ芳香族化合物の構造と性質、反応性について、脂肪族化合物と対比しながら、体系的に理解する。その際、ベンゼン環および官能基により化合物の性質が特徴づけられることや、反応性や構造と関連付けながらこれらの化合物が相互に関わっていることを理解する。		
	7	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1 高分子化合物の構造と性質 第2章 天然高分子化合物 1 糖類 2 アミノ酸とタンパク質 3 核酸 第3章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 合成樹脂 3 ゴム	「化学基礎」では、プラスチックなどの高分子化合物の構造について学習している。本章では天然に存在する高分子や合成によって得られる高分子などの高分子一般について、その分類や構造、重合方法、特徴などを理解する。 本章では代表的な合成高分子である合成繊維や合成樹脂(プラスチック)、ゴムについて、その構造や性質を理解する。	7	
第2学期	9・10	演習問題	共通テスト対策を中心とした演習を行う。		
	11	演習問題	共通テスト対策を中心とした演習を行う。		
	12	演習問題			
第3学期	1	演習問題			
	2	演習問題			
	3	演習問題			

## 【理科 シラバス】

科目名	生物			使用 教材	教科書	生物（東京書籍）
学 年	2年	単位数	2		副教材	新課程ニューグローバル生物（東京書籍） フォトサイエンス生物図録（数研出版）
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース（理系・選択）					

### 【授業の概要】

- ①生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成することを目標とします。
- ②2～3年生の2年を使い、教科書を進めていきます。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ①授業は基本的に「グループワーク（ディスカッション）」、「講義」、「実験・観察」の3つのスタイルで行います。
- ②単元ごとに確認テストを行い、知識の定着と思考力を評価していきます。
- ③タブレット端末やプロジェクターなどのICT機器を活用しながら、授業を展開していきます。
- ④ワークは学習内容がある程度蓄積したら、随時進めていくことを進めます。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。</li> <li>観察や実験の技能を修得できたか。</li> <li>観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の知識、理解に関する問題</li> <li>課題への取り組み</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな生物現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できるか。</li> <li>観察や実験を通して、生物現象を論理的に思考し、問題を解決し、実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。</li> <li>課題や実験のレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題）</li> <li>課題への取り組み</li> <li>観察・実験等</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然現象に関心を持ち、科学的な見方をしているか。</li> <li>授業、実験に意欲的に参加し、論理的に探究しようとする態度が見えるか。</li> <li>学習内容について振り返り、日常生活や社会に生かそうとしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加のしかたや態度</li> <li>観察・実験・発表等</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ①「なぜ?」、「どうして?」の自分の感性を大切に、常に疑問や課題を持ち、その解決に向けて主体的に授業に取り組むことが重要です。
- ②授業に参加することは、ただ板書を写すことではありません。
- ③地球上では日々新しい科学的発見などが起きています。生物学も日々変化、更新されているものです。ニュースなどを見たり、Webなどで調べたりすることで、自身の科学的興味関心を伸ばしていきましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	1編 生物の進化 1章 生命の起源と細胞の進化	1.共通性と多様性をつなぐ進化 A 私たちから最も遠い生物 B 進化が生物にもたらすもの 2.生命の誕生 A アミノ酸の合成 B 核酸やタンパク質の合成 C 細胞の起源 3.生物の多様性と地球環境の変化 A 生物の出現と大気組成の変化 B 真核生物の誕生		
	5	2章 遺伝子の変化と進化のしくみ	1.遺伝子変異 A 遺伝的変異が生じるしくみ 2.多様な遺伝子変異をもたらす有性生殖 A 染色体と遺伝子座 B 減数分裂で生じる多様な配偶子 C 遺伝子の連鎖と独立 D 乗換えて生じる新しい連鎖と組換え 3.進化の定義と自然選択による進化 A 自然選択による進化 B 適応進化 4.遺伝子レベルでみる進化 A 遺伝子プールと遺伝子頻度 B 自然選択による遺伝子頻度の変化 C 遺伝的浮動 D 分子進化と中立進化 5.種分化 A 種とは何か B 種分化のしくみ C 種多様性のしくみ		
	6	3章 生物の系統と進化  2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	1.生物の系統 A DNAの塩基配列に基づく系統樹 B 系統の探究 2.生物の系統分類 A 生物の分類 B ドメイン 3.霊長類のなかのヒト A 霊長類の特徴 B 類人猿とヒトの違い 4.人類の出現と変遷 A 最初の人類の特徴 B 原人・旧人の出現 C ヒトの出現  1.細胞を構成する成分 A 細胞を構成する成分 2.生体膜のはたらき A 生体膜のはたらきと構造 B 生体膜の透過		
	7		3.細胞の構造 A 真核細胞の構造とはたらき B 遺伝情報にかかわる構造 C エネルギーの変換にかかわる構造 D タンパク質の合成にかかわる構造 E 細胞分裂や物質の貯蔵にかかわる構造 F 細胞の保護にかかわる構造 G 細胞の形の維持や運動にかかわる構造 4.タンパク質の構造 A タンパク質の構造 B タンパク質のフォールディングと変性		

第2学期	9	2章 代謝とエネルギー	5.酵素としてのタンパク質 A 活性化エネルギーと酵素 B 活性部位と基質特異性 C 酵素の反応速度 D 酵素の活性と変性 E 酵素反応の阻害 F 補酵素と金属 G 酵素反応の調節 6.生命現象とタンパク質 A 生体膜での輸送 B 細胞間の情報伝達  1.代謝とエネルギー A 化学反応とエネルギー B 代謝とATP 2.呼吸 A 呼吸の反応経路と反応の場 B 解糖系 C クエン酸回路 D 電子伝達系 E 呼吸全体でのATPの収率 3.発酵 A 発酵と呼吸の違い B 発酵の種類 4.光合成 A 光合成反応の過程と反応の場 B チラコイドでの反応～光合成の第一段階～ C ストロマでの反応～光合成の第二段階～	
	10	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	1.DNAの構造 A DNAの二重らせん構造と方向性 2.DNAの複製 A DNAの複製の過程 3.遺伝情報の流れ A 遺伝情報の流れ 4.RNAと転写 A RNAの構造と種類 B 転写のしくみ C 真核生物のRNAの加工 5.翻訳のしくみ A コドンと遺伝暗号表 B 翻訳のしくみ C 原核生物のタンパク質合成	9
	11	2章 発生と遺伝子発現	6.遺伝情報の変化 A 突然変異とアミノ酸配列 B DNA多型  1.原核生物の遺伝子発現の調節 A 大腸菌と培地 B 大腸菌の環境に対する応答 C 原核生物の基本的な転写調節 2.真核生物の遺伝子発現の調節 A 真核生物の遺伝子発現の調節 B 細胞外の環境に応じた遺伝子発現の調節 3.選択的遺伝子発現と細胞分化 A 分化した細胞の遺伝子発現 B 遺伝子発現の調節の変化と細胞の分化 4.動物の発生 A 動物の配偶子形成 B 卵と精子 C 受精 D ウニの発生 E カエルの発生 5.胚の細胞の発生運命と遺伝子発現 A 原腸形成での細胞のはたらきと発生運命	9

			<ul style="list-style-type: none"> <li>B 原基分布図と細胞分化</li> <li>C 細胞分化と遺伝子発現</li> </ul> <p>6.発生現象と遺伝子発現の調節</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 細胞質決定因子</li> <li>B カエルの受精でみられる 卵の細胞質の配置換えと背腹の決定</li> <li>C ショウジョウバエの前方部の決定</li> <li>D 誘導</li> <li>E 誘導の連鎖</li> </ul>		
	12	3章 遺伝子を扱う技術	<p>7.動物の形と調節遺伝子の発現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 動物の体の形を決める遺伝子</li> <li>B 動物の形づくりとホックス遺伝子</li> </ul> <p>1.遺伝子を増幅する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 制限酵素による DNA の切断</li> <li>B DNA クローニング</li> <li>C ポリメラーゼ連鎖反応</li> </ul> <p>2.塩基配列を解読する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 電気泳動</li> <li>B サンガー法 (ジデオキシ法)</li> <li>C ゲノムプロジェクト</li> </ul> <p>3.遺伝子組換え技術の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 大腸菌への遺伝子導入</li> <li>B 生物個体への遺伝子導入</li> </ul> <p>4.遺伝子や細胞を扱う技術の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 遺伝子や細胞を扱う技術の課題</li> </ul>		
第3学期	1	4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激と受容	<p>1.刺激の受容から反応への流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 情報の伝達と反応</li> <li>B ニューロン</li> </ul> <p>2.ニューロンの興奮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 静止電位と活動電位</li> <li>B 全か無かの法則</li> </ul> <p>3.興奮の伝導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 興奮の伝導</li> <li>B 跳躍伝導</li> </ul> <p>4.興奮の伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A シナプスと情報の伝達</li> </ul>		
	2		<p>5.刺激の受容と感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 光刺激の受容</li> <li>B 視細胞</li> <li>C 眼の調節</li> </ul> <p>6.中枢神経系での情報処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 中枢神経系</li> <li>B 反射</li> </ul> <p>7.効果器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 筋肉の構造</li> <li>B 筋収縮のコントロール</li> </ul>		
	3	2章 動物の行動	<p>1.動物の行動とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 動物の行動をめぐる4つのなぜ</li> <li>B 行動発現のしくみ</li> <li>C 行動の生得的な要素と習得的な要素</li> </ul> <p>2.刺激の受容と行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A フェロモンと走性</li> <li>B 行動の神経メカニズム</li> </ul> <p>3.学習のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 慣れの神経メカニズム</li> <li>B 脱慣れと鋭敏化</li> <li>C 古典的条件づけ</li> </ul>		

## 【理科 シラバス】

科目名	理科演習			使用 教材	教科書 副教材	なし プリント集
学 年	3	単位数	3			
科・コース	普通科 特別進学選抜コース 特別進学コース 国公立文系					

### 【授業の概要】

主に理科基礎の基礎科目について演習を行う。大学入試共通テスト対策を中心に行う。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ① 授業は、担当者作成のプリント、教科書を使用して進めていきます。
- ② 板書事項をノートに写し取るだけでは定着しません。先生の説明を自分でかみ砕き反芻して理解に努めてみましょう。
- ③ 授業内容の復習や問題演習などしっかり取り組むこと。復習が最重要です。
- ④ 新聞やテレビなどの科学的な話題に目を向け、興味や関心を持つように心がけよう。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に判断する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・自然科学を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然科学について興味・関心を持ち、調べたり探究活動に臨み理解しようとする態度を持っている。 ・学習内容について振り返り、日常生活や社会に活かそうとしている。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・1年生、2年生次に使用した生物基礎、物理基礎、地学基礎等の教科書やワークを用いて今までの総復習を行いましょう。
- ・受験に使用する基礎科目2科目を早急に決めてください。

### 年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1 学期	4	共通テスト対策演習	基礎科目の演習を行う		
	5				
	6				
	7				
第2 学期	9	共通テスト対策演習	基礎科目の演習を行う		
	10				
	11				
	12				
第3 学期	1	共通テスト対策演習	基礎科目の演習を行う		
	2				
	3				

## 【外国語科 シラバス】

科目名	英語コミュニケーションⅢ			使用教材	教科書	CROWN English Communication III
学 年	3	単位数	4	副教材	共通テスト対策問題集	
科・コース	普通科 特別選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

「英語コミュニケーションⅡ」の学習内容を踏まえ、「聞くこと」「読むこと」「やり取り」「発表」「書くこと」の5領域（スキル）の力を伸ばす活動を行いながら、テキスト本文で扱うトピックに関する知識と理解を深めます。各レッスンで使われている重要表現や専門用語を習得し、自分の考えや意見を英語で表現する際や初見問題に取り組む際に既習事項を活用できることを目標としています。

### 【学習方法と授業の進め方】

各トピックに関わる専門用語の分類・整理と、構文解釈を中心に英文を読み進め、内容理解を行います。リスニングや意見交換、ペアワークやグループワークなどの活動も行いながら、精読ではなく多読を目指します。また、週末課題として共通テスト対策問題集を活用することで、様々なテーマの初見の英文に触れながら受験対策を行います。

### 【学習評価】

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の5技能（聞く、読む、話す、発表する、書く）を身に付けている。</li> <li>英文構造を理解し、内容把握や要点整理ができる。</li> <li>様々なトピックに応じた専門用語や表現を理解している。</li> </ul>	
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスニングやリーディングを通して内容を読み取った上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、「必要な情報」や「概要」、「要点」を捉えることができる。</li> <li>日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広いテーマについて、自分の考えを適切に伝えることができる。</li> </ul>	
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的・主体的に、英語でコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。</li> </ul>	

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・事前に各レッスンの英文を聞き、自ら音読をした上で、新出単語や熟語の意味を調べて内容把握をしておく。
- ・各トピックで多用される専門用語や表現を自分で整理しておく。
- ・授業中のペアワークやグループワークに積極的に参加する。
- ・課題の提出を行う。

年間指導計画 英語コミュニケーションⅢ

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	Lesson 1 How Language Shapes the Way We Think	言語・思考／講演	4	
	5	Lesson 2 Weak Robots	科学技術・社会／雑誌記事	11	
	6	Lesson 3 Fake News Is Everywhere: Beware!	情報・社会／論説文	8	
	7	Lesson 4 Beyond What Nature Intends	科学技術・生き方／雑誌記事	15	
第2学期	9	Lesson 5 How to Beat Procrastination	心理・行動／ブログ記事	9	
	10	Lesson 6 Today's Treasure, Tomorrow's Trash	環境・消費社会／論説文	6	
	11	Lesson 7 Only a Camera Lens between Us	平和・国際貢献／雑誌記事	16	
	12	Lesson 8 Super Clone Cultural Properties	芸術・文化遺産／インタビュー	4	
第3学期	1	Lesson 9 Culture in the Animal Kingdom	動物・文化／論説文	14	
	2	Lesson 10 Does Money Make you Mean?	経済・社会心理／雑誌記事	10	
	3				

## 【外国語科 シラバス】

科目名	論理・表現Ⅲ			使用 教材	教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅲ
学 年	3	単位数	2		副教材	入試対策問題集
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、「聞くこと」「読むこと」「やり取り」「書くこと」を統合した言語活動を通して、場面や状況に応じた語彙やフレーズを学習し、より実践的な語彙力と、論理の構成や展開を工夫して相手に伝える発信力を養います。

### 【学習方法と授業の進め方】

1学期は、教科書を使って様々な場面における表現の仕方を学習し、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の3つのアウトプットを中心とした言語活動を行います。2学期からは、私立大学の入試過去問題に取り組み、様々なトピックを扱った長文問題の読解を行います。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報や考えを発信するために必要となる語彙や表現を理解している。</li> <li>各レッスンで習得した語彙や表現を適切に活用することができる。</li> <li>各文法事項の用法を理解している。</li> <li>学習した文法事項を適切に応用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「知識・技能」に関する問題</li> <li>授業中の確認テスト</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した語彙や表現、および文法事項を生かして英訳することができる。</li> <li>習得した語彙や表現、および文法事項を踏まえて自分の英文を膨らませて、情報や考えを発信することができる。</li> <li>相手に理解してもらえるように論理の構成や展開を工夫することができる。</li> <li>ペアワーク、グループワークにおいて、お互いにアドバイスを交換することで、英文を推敲できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題</li> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> <li>発表や書くことを中心とした活動</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した語彙や表現、および文法事項表現を使おうとしている。</li> <li>間違えることを恐れずに、情報や考えを発信しようとしている。</li> <li>適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> <li>発表や書くことを中心とした活動</li> <li>課題等の提出状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

〔予習〕 各レッスンで設定された状況を理解し、わからない単語や表現を調べてくる。

〔授業〕 予習内容の確認。OUTPUT 部分の活動をクラス全体、またはグループで行いながら、各シチュエーションに応じた語彙やフレーズ、さらに文法的に正しい英文を作成することで、自分の意見や考えを英語で適切に発信する能力を鍛える。

〔復習〕 予習の段階で理解できなかった部分や間違えていた箇所を確認し、学習した語彙や表現、および文法事項を整理する。授業中にグループ活動のなかで使用した表現を定着できるようノート等にまとめる。

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson 1 Friendship and improvement	Situation：相談メール（助言）	15	
		Lesson 2 Which is better, a paper or an electronic dictionary?	Situation：書店での商品説明（譲歩）		
		Lesson 3 Can you change your personality?	Situation：新聞の悩み相談コラム（関係）		
		Lesson 4 How do we make decisions?	Situation：講義（判断の根拠）		
	5	Lesson 5 Online doctor consultations	Situation：ウェブサイト（代替）	3	
		Lesson 6 Healthy lifestyle	Situation：友達同士の会話（結果）	3	
		Lesson 7 What do you do after school?	Situation：メール交換		
		Lesson 8 Direct and indirect ways of communication	Situation：物事への正負の影響		
		Lesson 9 Should we use social media?	Situation：オンライン講義（差異）	9	
	6	Lesson10 Are you a good user of social media?	Situation：講義（理由）	17 18	
		Lesson11 Lifetime employment or career changes?	Situation：グループディスカッション（可能性）	8	
		Lesson12 Diversity in the workplace	Situation：テレビ番組（情報の追加）	13	
		Lesson13 The rise of the cashless society	Situation：記事（対照）		
		Lesson14 The gap is widening.	Situation：ニュース番組（意見）		
		Lesson15 What can we do to solve global warming?	Situation：科学記事（変化）		
	7	Lesson16 Saving the earth from plastic waste	Situation：デジタルニュース（要約・結論）	14	
		Lesson17 Innovations in machine translation	Situation：雑誌記事（目的）	9 15	
		Lesson18 Technological changes in agriculture	Situation：クラスメートの会話（例示）	9	
		Lesson19 Just knowing about SDGs is enough?	Situation：雑誌記事（情報源）	4	
		Lesson20 Importance of education	Situation：クラスメートの発表（義務）		
第2学期		9	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。	
	10	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
	11	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
	12	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
第3学期	1	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
	2				
	3				

## 【外国語科 シラバス】

科目名	英語演習			使用 教材	教科書	
学 年	3	単位数	2	副教材	raise 4 英語総合問題 SECOND EDITION	
科・コース	普通科 特選コース・特進コース					

### 【授業の概要】

私立4年制大学入試対策として、読解力・文法力・作文力・リスニング力の総合的な向上を目指す。社会・科学・歴史と多様なテーマの教材を活用し、様々な分野に関する語彙力や背景知識を獲得することで、各学部の出題傾向に対応できる英語力を養う。

### 【学習方法と授業の進め方】

[予習] 授業前に教材を読み、設問に答えておく。

[授業] 文章の流れに注目し内容把握に努める。頻出語句や文法事項を確認する。

[復習] 文章を精読し内容理解を深める。授業中に扱った頻出語句をしっかりと覚える。文法事項は、参考書等を参照し確実に理解しておく。

### 【学習評価】

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の4技能（聞く、読む、話す、書く）について実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。</li> <li>英語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。</li> <li>英語を通じて、異文化に興味を持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「知識・技能」に関する問題</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。</li> <li>聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</li> <li>言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言</li> <li>課題等の提出状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

授業で学習したことを必ず復習して確実に身につけておきましょう。定期テストのためだけの学習にとどまらず、大学入試で得点できることを目的に勉強に取り組んでください。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson 1 時制	時制・進行形・完了形	16 10,4	
		Lesson 2 助動詞	様々な助動詞・助動詞+have+過去分詞・慣用表現		
	5	Lesson 3 受動態	They say that の受動態 進行形/完了形/群動詞の受動態	3	
		Lesson 4 不定詞	Too...to～・enough to ～・be to ～	16	
	6	Lesson 5 動名詞	動名詞を用いた慣用表現	10	
Lesson 6 分詞		様々な分詞構文 With+O+分詞・分詞を用いた慣用表現	3		
Lesson 7 比較		比較級を用いた慣用表現	17		
7	Lesson 8 関係詞	前置詞+関係代名詞 複合関係詞	7,13		
	Lesson 9 仮定法	様々な仮定法・ifを用いない仮定法			
第2学期	9	Lesson 10 名詞・冠詞・代名詞	用法を誤りやすい名詞・冠詞 用法を誤りやすい代名詞	5, 8	
		Lesson 11 形容詞・副詞	数量を表す形容詞・注意すべき副詞/ 接続副詞	1,4 11	
		Lesson 12 接続詞・前置詞	接続詞・群前置詞		
	10	Lesson 13 否定	部分否定・二重否定 否定語を含まない否定表現	11, 12	
		Lesson 14 様々な構文①	強調・倒置	8, 9	
	Lesson 15 様々な構文②	名詞構文/無生物諸語構文	7, 13, 15		
第3学期	11	私大入試対策	問題集等		
	12				
	1				
	2				
	3				

## 【英語科 シラバス】

科目名	英語会話Ⅱ			使用教材	教科書	時事英語問題集
学 年	3	単位数	1	副教材	7日間完成英検準1級 予想問題ドリル	
科・コース	普通科 特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

「英語会話Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動をさらに発展させます。自分の考えの根拠となる情報や具体例を活用して、説得力のあるスピーチを展開できるようになることを目標とします。

### 【学習方法と授業の進め方】

授業は英語で行われます。スピーチやディベート活動を通して、専門的な言語技能を磨くとともに主体性と協調性を養います。また、コミュニケーションを図る際に必要とされる会話の瞬発力や問題解決につながる批判的思考力を鍛えます。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なトピックに関する適切な語彙や表現を理解している。</li> <li>英語でのコミュニケーションにおいて説得力のある表現や効果的な論理展開を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「知識・技能」に関する問題</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なトピックに関する言語活動において適切な語彙を効果的に活用することができる。</li> <li>学習した論理展開を活用して説得力のある発信ができる。</li> <li>会話の瞬発力を意識した発話を心掛け、スムーズな言語活動に貢献している。</li> <li>議題の本質を客観的な視点で捉え、問題解決に貢献している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題</li> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> <li>スピーキングテストやスピーチ</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>間違ふことを恐れずに、情報や考えを発信しようとしている。</li> <li>あいづちを打ったり質問をするなどして、相手の話を関心を持って聞いている。</li> <li>学習した語彙や表現、および論理展開などの技法を使おうとしている。</li> <li>適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> <li>スピーキングテストやスピーチ</li> <li>課題等の提出状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- 授業中は日本語ではなく英語で発信することを心がけましょう。
- ALTと積極的にコミュニケーションを取りましょう。
- 新しくインプットした語彙や表現はできるだけアウトプットし、定着を図りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Debate	即興ディベート① Constructive speech (Affirmative and Negative side)	3,4	英検の英作文問題等からテーマを出題予定
	5	Debate	即興ディベート② Attack・Defense speech	5,14,15	
	6	Debate	環境問題をテーマに,ディベートを行う。 Summary speech	7,13,11	
	7	Debate	社会問題をテーマに, ディベートを行う。	3,10	
第2学期	9	Debate	異文化をテーマに, ディベートを行う。	4,17	
	10	Debate	人権問題をテーマに, ディベートを行う。	5,16	
	11	Debate	時事問題をテーマに, ディベートを行う。	2,8,12	
	12	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
第3学期	1	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
	2	入試対策	大学入試の過去問題に取り組む。		
	3				

## 【英語科 シラバス】

科目名	時事英語Ⅱ			使用教材	教科書	時事英語問題集
学 年	3	単位数	2	副教材	7日間完成 英検準1級予想問題ドリル	
科・コース	普通科 特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

「時事英語Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「聞くこと」「読むこと」を中心とした言語活動を行います。海外のニュースのリスニングや英字新聞のリーディングなどを通して最新の時事問題に触れ、健康・政治・医療・経済・情報など多分野における専門的なトピックを扱い、国内外の社会問題への理解をさらに深めます。

### 【学習方法と授業の進め方】

1学期は、英語検定試験準1級のリスニング及びリーディング問題に取り組みます。2学期からは、海外のニュースを英語で視聴し、英語版の新聞記事を読みます。海外で報道されている話題や出来事、さらに歴史的・文化的背景を学習することによって国際関係を把握するとともに、報道特有の論理展開や表現、専門用語を習得し、英文要約の基盤となる情報整理力や、パラフレーズのための語彙力アップを目指します。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>時事問題を扱う際に必要となる専門的な語彙や表現を理解している。</li> <li>世界の様々な出来事に関する歴史的背景や国際関係を把握している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「知識・技能」に関する問題</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュースや記事の専門的な内容を英語で理解できる。</li> <li>専門的な語彙や適切な表現を使って様々なトピックについて自分の意見をまとめることができる。</li> <li>世界の様々な出来事に関する歴史的背景や国際関係を踏まえて、自分の考えを発信することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題</li> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に言語活動に参加し理解を深めようとしている。</li> <li>間違ふことを恐れずに情報や考えを発信しようとしている。</li> <li>学習した語彙や表現および文法事項表現を使おうとしている。</li> <li>適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> <li>課題等の提出状況</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・ニュースや新聞などの媒体を活用して、より専門的な知識を蓄積しましょう。
- ・世界の様々な出来事に関する歴史的背景や国際関係について自分の考えをまとめておきましょう。
- ・新しくインプットした語彙や表現はできるだけアウトプットし、定着を図りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	英検準1級対策	リスニング・リーディング対策を行う。	6、7	
	5	英検準1級対策	リスニング・リーディング対策を行う。	8、9	
	6	英検準1級対策	リスニング・リーディング対策を行う。	11、14	
	7	英検準1級対策	リスニング・リーディング対策を行う。	15、17	
第2学期	9	時事問題	最新のニュースに触れ、理解を深める。	1、2	
	10	時事問題	最新のニュースに触れ、理解を深める。	3、4	
	11	時事問題	最新のニュースに触れ、理解を深める。	5、10	
	12	時事問題	最新のニュースに触れ、理解を深める。	13	
第3学期	1	時事問題	最新のニュースに触れ、理解を深める。	16	
	2	時事問題	最新のニュースに触れ、理解を深める。	12	
	3				

## 【英語科 シラバス】

科目名	実践英語会話			使用教材	教科書 なし
学 年	3	単位数	2	副教材	プリントを配布
科・コース	普通科 特別進学国際コース				

### 【授業の概要】

1学期は英語検定の準1級、2学期と3学期はTOEFLの語彙やライティングの活動を行います。

### 【学習方法と授業の進め方】

英語検定の準1位級やTOEFLに合った難易度の語彙熟語を学びます。意見を明確に示し、客観的なデータを証拠にしながらか作文を書きます。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語検定の準1級やTOEFLの問題を解ける語彙力をつけている。</li> <li>パラグラフに必要な文や内容を理解している。</li> <li>主張を分かりやすく、説得力のある使い方するために使う熟語を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「知識・技能」に関する問題</li> <li>授業中の単語クイズ</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な語彙や表現を使って作文を書いている。</li> <li>主張に関連しているものとしていないものを区別している。</li> <li>信用できるソースからデータを見つけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題</li> <li>パラグラフの内容</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に言語活動に参加し、理解を深めようとしている。</li> <li>間違ふことを恐れずに、情報や考えを発信しようとしている。</li> <li>相手に理解してもらえるように論理の構成や展開を工夫しようとしている。</li> <li>適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言や、ペアワーク、グループワークなどの言語活動</li> <li>課題等の提出状況</li> <li>単語クイズの成績</li> <li>パラグラフへの取り組み</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- インターネットや様々な文献を参考にして、より専門的な知識を蓄積しましょう。
- 観察、実験、調査などの結果を整理・分析し、自分だけのオリジナルな結論を導きましょう。
- 自分の意見を明確に伝えることを目指しましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	パラグラフの書き方	基本的な構造を学び、英検準1級のライティングの過去問を解く。		
	5	効果的な言い方	客観的な文の書き方や熟語を学ぶ。英検準1級のライティングの過去問にそれらの熟語を活かし、パラグラフを書く。		
	6	要約の書き方	言い換え方を学び、英検準1級の要約の過去問を解く。		
	7	ライティング	与えられたテーマについてパラグラフを書く。与えられた作文を要約する。		
第2学期	9	文献の見つけ方	信頼できるソースや客観的なデータを探す。TOEFLのライティングの過去問を解く。		
	10	ライティング	TOEFLの要約の過去問とパラグラフライティングの過去問を解く。		
	11	テーマ選び	テーマを決め、研究をする。調べたことを要約し、自分の言葉に言い換える。		
	12	ライティング	自身が決めたテーマに関するパラグラフを書く。		
第3学期	1	ライティング	英検、TOEFL、受験のライティング活動を行う。		
	2	ライティング	英検、TOEFL、受験のライティング活動を行う。		
	3				

## 【保健体育科 シラバス】

科目名	体育			使用 教材	教科書	MY SPORTS (大修館書店)
学 年	3 学年	単位数	2 単位		副教材	なし
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

- ・運動の合理的な実践を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、運動能力や体力の向上を図り、自主自立を身につけた豊かな人間性の育成を重点においています。
- ・生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる科目です。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ・体育委員が集合、整列、準備運動を行います。
- ・授業の内容説明と健康状況の確認をします。
- ・個々のレベルを把握し初歩的な技術を習得します。
- ・ゲーム形式で行います。
- ・整理運動と授業のまとめをします。

### 【学習評価】

- ・スキルテストをはじめ下記の観点別学習評価により総合的に評価する。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な種目における技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解しているか。</li> <li>・ゲームや競技会の仕方などを理解しているか。</li> <li>・基本動作や、基本となる技を作戦や状況に応じて用いてゲーム展開をしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルテスト</li> <li>・ゲーム (簡易ゲームも含む)</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見しているか。</li> <li>・課題を解決するための練習の計画を立てているか。</li> <li>・自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘しているか。</li> <li>・グループ学習においてチームや自己の役割を提案しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習</li> <li>・ゲーム (簡易ゲームも含む)</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組んでいるか。</li> <li>・フェアプレイを大切にしているか。</li> <li>・話し合う場面で合意形成に貢献しようとしているか。</li> <li>・健康、安全を確保しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習</li> <li>・スキルテスト</li> <li>・ゲーム (簡易ゲームも含む)</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・学校指定の体操服、シューズを着用してください。また、こまめに洗濯し衛生面に気をつけましょう。
- ・授業はチャイムと同時に始まりますので、休み時間のうちに活動場所に移動しておいてください。
- ・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
- ・貴重品の管理をしっかり行うようにしてください。
- ・安全面には充分気を配りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	集団行動  体づくり運動、体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合 ・解散 ・列の増減 ・開列 ・方向転換</li> <li>・行進 ・行進からの方向転換 ・かけ足 ・複合動作</li> <li>・まとめ、評価</li> <li>・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動</li> </ul>	3	
	5	新スポーツテスト (8種目を実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50m 走 ・立ち幅跳び ・ハンドボール投げ</li> <li>・持久走 ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈</li> <li>・反復横跳び</li> </ul>	3	
	6	バドミントン (1)オリエンテーション (2)ストローク 応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の理解、安全性とマナー、ラケットの握り方</li> <li>・オーバーヘッドストローク (フォア、バック)</li> </ul>	3	
	7	(3)ラケットワーク応用 (4)ゲーム形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン</li> <li>・ダブルスによるリーグ戦</li> </ul>	3	
第2学期	9	ソフトボール (1)オリエンテーション (2)キャッチボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の説明、安全とマナー</li> <li>・スローピッチの練習、近距離から遠距離へのキャッチボール</li> </ul>	3	
	10	(3)守備 (4)打撃 (5)ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴロ、フライの捕球練習、シートノック</li> <li>・近距離でのバント、トスバッティング、フリーバッティング</li> <li>・スローピッチでのゲーム</li> </ul>	3	
	11	硬式テニス (1)ストローク (2)ボレー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1で向かい合い、投げたボールを軽く打ち返す</li> <li>・ストレート、クロスラリー・グリップ、フットワーク</li> </ul>	3	
	12	(3)サービス (4)ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トス、基本的なフォーム</li> <li>・ゲーム形式での練習、リーグ戦で試合を行う、審判法を学ぶ</li> </ul>	3	
第3学期	1	卓球 (1)サービス・ストローク (2)ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブ、カットサービス、フォアハンド</li> <li>・バックハンドストローク</li> <li>・簡易なシングルス ・ダブルスのゲーム ・リーグ戦</li> </ul>	3	
	2	(3)まとめ、評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ、評価</li> </ul>	3	
	3				

## 【保健体育科 シラバス】

科目名	武道（空手道）			使用 教材	教科書	MY SPORTS（大修館書店）
学 年	3年生	単位数	1単位	副教材	なし	
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

- ・空手道の歴史や特性を学び、基本的技術を身につけます。
- ・礼儀作法を学び、集中力を高めます。
- ・大きな気合いを出すことにより、表現を取り入れます。
- ・精神力を養い、技術と体力を高めます。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ・始めと終わりは空手道の礼法（座礼・立礼）で黙想をし、精神統一します。
- ・準備運動、補強運動を行い体を温めます。
- ・基本技の練習、移動基本の練習を行います。
- ・形の練習（個人・団体）を行います。
- ・実戦を意識した攻撃と防御の練習を行います。
- ・グループ練習、発表を行います。

### 【学習評価】

- ・積極的に授業に参加しているか。
- ・協力して運動しているか。
- ・技能・体力の向上に努めているか。
- ・授業の内容を理解し、実践しているか。
- ・正しい礼儀作法・所作が出来るか。
- ・正確な技を身につけ、正しい形を演武出来るか。

### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空手道の歴史や特性を理解し、武道としての礼儀作法や所作を身につけることが出来ているか。</li> <li>・基本技術を正しく習得し、目的に応じた実践が出来ているか。</li> <li>・基本技術を応用させ、正しい順序で形を覚えることが出来ているか。</li> <li>・形演武と組手実技の実践が出来ているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み</li> <li>・個人、グループ練習</li> <li>・実技テスト</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した技術を実戦的に捉え、表現出来ているか。</li> <li>・対人やグループになる練習では、お互いの動きを考察・分析しながら取り組んでいるか。</li> <li>・形（個人・団体）は正しい順序や技術だけでなく、表現力を取り入れられているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み</li> <li>・個人、グループ練習</li> <li>・実技テスト</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空手道に関心を持ち、生涯を通じて健康な体づくりと精神を養う見方が出来ているか。</li> <li>・空手道は競技スポーツと武道の2つの概念があることを理解して取り組んでいるか。</li> <li>・授業に積極的に参加し、説明や実技例をよく聞いて観察する姿勢が出来ているか。</li> <li>・仲間やグループと協力して取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み</li> <li>・個人、グループ練習</li> <li>・実技テスト</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・学校指定の体操服を着用し、裸足で行います。時計などの装飾品は全て外してください。
- ・授業はチャイムと同時に始まりますので、休み時間のうちに活動場所に移動するようにしてください。
- ・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
- ・貴重品の管理をしっかりと行うようにしてください。
- ・健康チェックと安全面には充分気を配りましょう。
- ・空手道は礼に始まり礼に終わります。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	空手道の概要 礼儀作法	授業の流れ 空手道の歴史 空手道の現状 高校生としての空手道 年間練習計画 DVD鑑賞 礼法について(座礼・立礼)	3	
	5	基本の立ち方と所作 立ち基本	閉塞立ち 結び立ち 平行立ち 八字立ち ナイフ立ち 四股立ち 騎馬立ち 用意と直り 正拳突き 上段上げ受け 下段払い 中段内受け	3	
	6	立ち基本 発表・評価	中段外受け 手刀受け 前蹴り グループ発表 個人発表 評価	3	
	7	移動基本の立ち方と運足 移動基本 まとめ	前屈立ち(左右) 前屈立ちでの移動 回り方 順突き 逆突き 上段上げ受け 下段払い まとめ	3	
第2学期	9	移動基本 発表・評価	中段内受け 中段外受け 手刀受け 前蹴り 横蹴り(足刀) 回し蹴り グループ発表 個人発表 評価	3	
	10	形	個人形 「平安初段」の習得 グループ練習 個人練習	3	
	11	形	個人形 「平安二段」の習得 グループ練習 個人練習	3	
	12	発表・評価 組手(約束組手) 組手(約束組手応用)	個人形演武 評価 相手からの攻撃を防御して反撃(上段・中段・下段) 約束組手を連続の攻防で行う(上段・中段・下段)	3	
第3学期	1	組手(実戦技と動き) 発表	ステップワーク 突き技 蹴り技 ミット打ち 反応 実技発表	3	
	2	まとめ・評価	まとめ	3	
	3				

## 【普通科 シラバス】

科目名	ダンス			使用教材	教科書	MY SPORTS(大修館書店)
学年	3学年	単位数	1単位		副教材	なし
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

### 【授業の概要】

誰にでもできるダンスステップや踊りを自由に工夫することにより、生涯を通じて継続的に体を動かす資質や能力を学びます。  
運動の楽しさや喜びを味わい、創造力、思考力、判断力が高められる教科です。

### 【学習方法と授業の進め方】

- ・体を使うために準備体操、柔軟を実施します。
- ・基本的なダンスステップの練習をし、組み合わせて踊ります。
- ・音楽に合わせてダンスステップの組み合わせた演技を踊ります。
- ・与えられたステップと音楽から各自がイメージを引き出し、置き換えて踊ります。
- ・手具(ボール等)を使った演技を実施します。

### 【学習評価】

- ・積極的に授業に参加しているか。
- ・協力して運動しているか
- ・技能・体力を高めているか。
- ・自ら課題を見つけ、解決を目指して運動の仕方を工夫しているか。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい振りを理解し、踊ることができる。</li> <li>・新しい振りを習得することができる。</li> <li>・いくつかの振りを組み合わせて踊ることができる。</li> <li>・リズムを取りながら踊ることができる。</li> <li>・動きの名称を理解している。</li> </ul>	実技試験 行動観察
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己及び他人の振りを見て理解し、良いところや直すべき点を相手に伝えている。</li> <li>・大きく振りを見せるために動きを工夫して踊っている。</li> <li>・表情豊かに踊っている。</li> </ul>	実技試験 評価表の提出 行動観察
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に留意し、仲間と協力して活動している。</li> <li>・グループワークで自分から積極的に発言しようとしている。</li> <li>・積極的に振りを身に付けようと努力している。</li> <li>・創作ではグループのメンバーと協力して振りを考えようとしている。</li> <li>・時間を守り行動しようとしている。</li> <li>・出された指示に対して素早く行動しようとしている。</li> </ul>	行動観察

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・学校指定の体操着・シューズを着用して下さい。また、こまめに洗濯し衛生面に気を付けるようにしましょう。
- ・授業はチャイムと同時に始まりますので、休み時間のうちに着替えを済ませ、活動場所に移動するようにしてください。
- ・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
- ・貴重品の管理をしっかりと行うようにして下さい。
- ・安全面には十分に気を配りましょう。
- ・全体で協力して授業を進めて行きましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SD Gs	備考欄
第1学期	4	○オリエンテーション ◎現代的なリズムダンス (1)ステップの基本	・学習内容の理解  ・ボックス、クロスステップなど	3	
	5	(2)ステップの組み合わせ	・ツーステップ、ギャロップなど ・基本ステップを組み合わせで踊る ・腕や顔も動かしながら踊る	3	
	6	(3)音楽に合わせる	・組み合わせた演技を音楽に合わせて踊る ・各自がイメージを引き出しながら踊る	3	
	7	(4)発表・評価	・グループで発表 ・評価	3	
第2学期	9	◎チアダンス (1)ステップの基本	・基本的なステップを組み合わせで踊る	3 17	
	10	(2)音楽に合わせる	・組み合わせた演技を音楽に合わせて踊る	3 17	
	11	(3)発表・評価	・グループ発表 ・評価	3 17	
	12	◎新体操(ボール)	・手具の基本的な使い方 ・音楽に合わせて手具を使用する。	3	
第3学期	1	◎創作ダンス (1)注意事項	・流れの理解 ・グループ編成 ・曲の決定	3	
	2	(2)音楽に合わせ創作	・各グループ創作	3	
	3	(3)発表・評価	・グループ発表 ・評価	3	

## 【保健体育科 シラバス】

科目名	保健			使用 教材	教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)
学 年	3	単位数	1		副教材	現代高等保健体育ノート (大修館書店)
科・コース	普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース・進学コース					

### 【授業の概要】

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにする。  
生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

### 【学習方法と授業の進め方】

保健は2年間を通じて学びます。  
保健に関する情報は日々変化し、マスメディアなどから健康問題に関するさまざまな情報があふれています。  
生徒の皆さんが間違った認識をもたないように正しい知識を身につけていきます。  
健康を維持増進していくために身体の仕組みを知り、最終的に健康とは何かについて考えます。  
疑問があればそのままにしてしまわずに進んで質問してください。  
授業は板書やワイド、プリントを使用して進めます。

### 【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代における精神保健の課題をあげることができたか。</li> <li>精神疾患の予防法を理解できたか。</li> <li>感染症の定義、新興感染症と再興感染症の問題としての薬剤耐性菌の出現について理解できたか。</li> <li>感染予防の原則として感染源対策・感染経路対策・感受性者対策、現代の感染症についての社会と個人に分けた対策について理解できたか。</li> <li>性感染症、エイズとHIVの関係、予防法について理解できたか。</li> <li>心肺蘇生法の原理と意義、手順として胸骨圧迫・気道確保と人工呼吸・AEDの使用について基礎的な事項を理解できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>期末考査の知識・理解に関する問題</li> <li>ノート提出</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> </ul>
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できるか。</li> <li>精神疾患の治療について例をあげて説明できるか。</li> <li>感染症予防の原則、現代の感染症についての対策について具体的な事例などを比較したり分類したりするなど筋道を立ててそれらを説明できるか。</li> <li>応急手当や心肺蘇生法の各手順を総合的に考え、判断し表現しているか。</li> <li>保健行政の役割、保健情報の活用について資料などで調べたことを整理できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>期末考査の知識・理解に関する問題</li> <li>ノート提出</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> </ul>
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の健康に関心を持ち学習しているか。</li> <li>自ら健康的な生活を実践するため、健康課題の解決に意欲的に取り組もうとしているか。</li> <li>生涯の各段階におけるこれからの健康課題の解決に向け、学習に積極的に取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>期末考査の知識・理解に関する問題</li> <li>ノート提出</li> <li>課題プリントへの取り組み</li> </ul>

### 【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- 教科書や学習ノートを必ず用意し、配布される資料やプリントは、きちんと保管してください。(定期考査に役立ちます)
- ノートをとる際は、ただ板書を書き写すのではなく、先生の発言も聞き逃すことなくメモをとるようにしましょう。
- 提出物は遅れずに忘れず提出してください

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	精神疾患の特徴	精神疾患の発病の要因とおもな症状についてと今日的課題を学びます。 ・精神疾患の要因と種類 ・精神保健の今日的課題	3	
	5	精神疾患の予防	精神疾患の予防法や早期発見のために必要なことを学びます。 ・日常生活における精神疾患の予防 ・精神疾患の早期発見・早期治療	3	
	6	精神疾患からの回復 現代の感染症	精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要かを学びます。 ・専門家による支援と治療 ・社会環境の整備 新たに注目される感染症、再び問題となっている感染症について学びます。 ・感染症とは ・新たに注目される感染症 ・再び問題となっている感染症	3	
	7	感染の予防	感染症予防の3原則や現代の感染症についての社会と個人の対策について学びます。 ・感染症予防の3原則 ・現代の感染症対策	3	
第2学期	9	性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択	性感染症・エイズとは何か予防法と社会と個人の対策について学びます。 ・性感染症・エイズとは ・性感染症・エイズの予防 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫を学びます。 ・意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 ・適切な意思決定・行動選択を実現する工夫	3	
	10	健康に関する環境づくり 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当	ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴を学びます。 ・健康を保持増進するための環境 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくり 応急手当の意義について理解し、適切な手順を学びます。 ・応急手当の意義 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の方法を学びます。	3	
	11	心肺蘇生法	心肺蘇生法の方法と手順について学びます。 ・心肺蘇生法の意義と原理 ・心肺蘇生法の手順 ・AEDの使用法	3	
	12	心肺蘇生法実習	心肺蘇生法訓練用人形を使用し実際に行い技術を身につけます。	3	
第3学期	1	まとめ	2年間、保健で学んできたことを復習します。	3	
	2				
	3				

## 【音楽科 シラバス】

科目名	音楽 I			使用 教材	教科書	音楽 II Tutti+(プラス)
学 年	3	単位数	1		副教材	Music note
科・コース	普通科 特選・特進・特進国際コース					

### 【授業の概要】

高校1年生で音楽 I を週に1回履修しました。その上で更に深く研究するのが3年生の音楽 I です。教科書は音楽 II を使用します。音楽は、文字通り「音を楽しむ」ものです。決して「音が苦」になってはいけません。音楽をする喜び、楽しみを味わい、芸術に対する興味、関心も深めましょう。またその活動を通して人間性を育み感性を豊かにする事こそ3年の音楽 I の目標です。

### 【学習方法と授業の進め方】

3年の音楽 I の授業の中心は「歌」と「鑑賞」です。独唱曲を中心に、歌唱力を身につけ、世界の多くの歌、日本の歌に触れていきます。特に外国の歌では、イタリア語、ドイツ語の歌曲も取り上げ、原語で歌って行きます。また、教科書以外の音楽も取り入れ、楽しく歌って行きます。2学期には、映像の授業も取り入れて、充実した音響と映像設備によるクラシック、日本音楽鑑賞、オペラ・ミュージカル鑑賞等も行います。

### 【学習評価】

#### 観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	<p>【知】言葉の特性と曲種に応じた発声(奏法)との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>【技】曲にふさわしい発声(奏法)、言葉の発音、身体の使い方、奏法などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>【知】日本語の抑揚、アクセント、リズムなどの言葉の特性及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>【技】音符の特性を生かしてリズム打ちなど演奏技能を身に付け、表現している。</p> <p>【知】鑑賞において曲想や表現上の効果と音楽の構造ミュージカルオペラについての知識を理解している。</p>	定期考査、授業中の歌唱 発表等
②思考・判断・表現	<p>音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うか、演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について、ミュージカルやクラシック音楽日本の能楽の良さや美しさを自ら味わって鑑賞している。</p>	定期考査、歌唱の実技試験
③主体的に学習に取り組む態度	<p>ドイツ語、イタリア語の言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>日本語の抑揚や間、語感、歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズにどのように表され、曲想を生み出しているかに関心をもつ。</p> <p>リズム打ち奏法を身に付けることや技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらリズムアンサンブル活動をする事に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>ミュージカルの表現力の発見、オーケストラの響き、ソナタ形式において主題が展開されたり再現されたりする面白さに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	音楽鑑賞のノート提出、授業中の歌唱練習観察、リズム打ち視察、ミュージカル、クラシック音楽、能楽等の鑑賞態度等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

音楽は、特に予習も復習も必要ありません。その代わりに、週1回の貴重な時間、積極的な取り組みを期待します。音楽を理解し、愛好する心情を育むには、能動的なかわり方が求められます。決して受身にならず、主体的な姿勢で授業に臨むことが必要です

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	美しい発声 日本の歌(1) 校歌応援歌愛唱歌	昔から歌われてきた有名な日本の歌を学習。 日本の四季を味わう曲を歌う。 校歌応援歌愛唱歌 1年を通して授業最初に歌う	16	
	5	ドイツの歌を歌おう 校歌応援歌愛唱歌	世界でも有名なドイツ語で歌う歌曲を勉強します。変わった発音、ウムラウトなど、ユーモアを含めて楽しく歌って行きます。有名な日本の歌も学習します。	16	
	6	イタリア・フランスの歌を歌おう 楽典 音楽鑑賞 校歌応援歌愛唱歌	イタリアのカンツォーネと言えば、世界を代表する歌です。また、「お-シャンゼリゼ」などもその魅力をあますことなく味わいます。また簡単な音楽の知識の学習、音楽鑑賞も行います。楽典の学習	16	
	7	世界の歌 楽典 音楽鑑賞 校歌応援歌愛唱歌	イギリス、イタリア、ドイツの歌を総合的に探究し、歌いこんでゆきます。音楽理論を学びます。クラシック音楽をわかり易く解説しバロックを鑑賞します。楽典の学習	16	
第2学期	9	ミュージカル鑑賞 ① 「キャッツ」主題歌歌唱 日本歌曲歌唱 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	ミュージカル「キャッツ」の鑑賞 T・Sエリオットの詩集「キャッツポッサムおじさんの猫と付き合う法をもとに作られた猫の幻想的世界を鑑賞する。 「からたちの花」「さくらさくら」等歌う 仰げば尊し練習	16	
	10	ミュージカル鑑賞 ② 「アラジン」主題歌歌唱 英語の歌唱 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	ミュージカル「アラジン」の鑑賞 砂漠の王国アグラバーで貧しい暮らしを送る青年。テーマ曲の歌唱。 「イエスタディワンスモア」ポップスを歌う。 仰げば尊し練習	10	
	11	オペラ鑑賞 「トゥーランドット」 「ほたるこい」合唱 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	「トゥーランドット」夜明けまでにあの見知らぬ者の名がわかるまで北京では誰も寝てはならぬ」有名なアリアを中心に勉強し、歌唱。 「ほたるこい」三重唱までできるよう練習をする 仰げば尊し練習	10	
	12	ミュージカル鑑賞 「美女と野獣」歌唱 アジアの歌「アリラン」 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	ミュージカル「美女と野獣」フランスの小さな町に住む、読書好きなちよっとかわった娘、ベルを中心に歌を中心としてテーマ曲を歌唱と鑑賞。 韓国の民謡を勉強する。仰げば尊し練習	10	
第3学期	1	能の研究をしよう 卒業式歌	能「羽衣」について学習、鑑賞する。 仰げば尊し 校歌 練習	10	
	2	卒業式歌 卒業関係の歌唱	仰げば尊し 校歌 練習 「卒業写真」 他		
	3				